

令和5年度補正予算
国際会議の開催効果拡大実証事業
最終報告書

1	はじめに	P.2
2	実証事業の概要	P.4
1)	概要	P.5
2)	採択事業者一覧	P.6
3	実証事業の報告	P.8
1)	報告のプロセス	P.9
2)	参加者アンケートの項目	P.10
3)	参加者アンケートの基本属性	P.11
4)	参加者アンケートの国際会議に関する項目	P.16
5)	参加者アンケートの実証事業に関する項目	P.18
4	実証事業からの考察	P.19
1)	開催効果拡大の整理	P.20
2)	実証事業の分類	P.21
3)	具体的な取組事例	P.22
4)	優良事例Ⅰ型 広域連携	P.24
5)	優良事例Ⅱ型 ①企業・地域産業連携	P.33
6)	優良事例Ⅱ型 ②学生・市民連携	P.36
7)	優良事例Ⅲ型 その他新規性の高い取組	P.38
8)	催行人数不足により中止になった実証事業	P.41
9)	実証事業における具体的な試行や検証から学ぶ	P.42
10)	実証事業全体から見えた課題と解決策	P.44
11)	各地域が開催効果拡大に取り組むに当たってのポイント	P.48
5	事務局が実施した伴走支援	P.51
1)	実証事業前	P.52
2)	実証事業実施時	P.53
3)	その後の継続性や自走に向けたチェックリスト	P.54
4)	まとめ	P.56
6	今後に向けたまとめ	P.57
1)	事業の成果の考え方	P.58
2)	コンベンションビューロー主体による開催地域の取組フロー	P.60
3)	開催効果拡大を自走化	P.61
7	資料：国際会議における開催効果拡大に関する調査・提言	P.63

1 はじめに

○本事業の背景、目的

（背景）

政府は2023年5月に「新時代のインバウンド拡大アクションプラン」を決定し、MICE分野において「ビジネス目的での訪日外国人旅行消費額2割増（令和7年までに令和元年比）」「国際会議の開催件数世界5位以内（令和12年）」といった目標を掲げた。中でも国際会議の推進については、我が国の世界のビジネス拠点としての国際的な位置付けや世界への発信力、プレゼンスの向上を繋げつつ、日本を舞台としたビジネス交流を図る。あわせて我が国のMICE開催地としての誘致競争力や魅力の向上を図るための環境整備に取り組むとしている。

国際会議は各都市の誘致競争力を強化することで、開催件数の増加を図ることが重要であるが、同アクションプラン実現のためには、**開催が決定した会議の効果を最大化することも重要である**。そのためには、開催の波及効果を開催都市や会議関係者の範疇に留めず、より広範囲に拡大させていく必要がある。具体的には開催地と開催地以外の都市・地域との連携や、会議関係者とそれ以外の多様なステークホルダーとの交流を深めることが挙げられるが、現状では我が国においてそれらの取り組みは限定的である。

（目的）

本事業では、都市間の連携や多様なステークホルダーの連携を通じた開催地外への誘客やビジネス交流の創出等により、一層の開催効果の拡大につなげるため、国内約20都市を目途に、それらの都市において開催が予定される国際会議を対象に新しい発想での連携の仕組みを構築するための実証を行い、連携・交流の先駆モデルの創出を図る。また、フォローとしてこれらの連携に関する効果的な手法について調査検討を行い、その情報、ノウハウを国全体で共有していくことを目的とする。

なお、「新時代のインバウンド拡大アクションプラン」ではMICE開催地におけるサステナビリティへの取り組み促進及び地域文化資源の活用推進も期待されていることから、必要に応じ、これらにも関連付けた広範囲な取り組みが望まれるものとする。

国際会議の開催効果拡大実証 募集対象

都市間の連携や多様なステークホルダーとの連携を通じ、開催地外への誘客やビジネス交流の創出等といった、開催効果を拡大させるための**新規性の高い取組**を提案・実施する国際会議

2 実証事業の概要

○実証事業の募集対象

都市間の連携や多様なステークホルダーとの連携を通じ、開催地外への誘客やビジネス交流の創出等といった、開催効果を拡大させるための新規性の高い取組を提案・実施する国際会議。

※「日本国内にて2日間以上での会期で開催され、少なくとも日本を含め3つの国/地域から50名以上の現地参加を見込む国際会議における実証を行い、本募集要項に記載されている事項を全て承諾の上、実施できる当該国際会議の主催者」及び、「国際会議の誘致・開催支援活動をするコンベンションビューロー等もしくはPCO等」が連名で申請すること。

○実証期間

2024年3月15日～2024年12月末日までに会期が終了する国際会議

○募集

- ・一次募集 ～2024年2月20日
- ・二次募集 2024年4月15日～5月16日

○採択

総応募件数 66件（第一次51件、第二次15件）

採択総件数 32件（第一次22件、第二次10件、【111】京都EIMは採択前に辞退）

※中止事業 5件（経費精算辞退：【010】ICRA横浜、【037】広島ISHW 中止：【014】ICE京都、【004】松江APCFS
辞退：【110】沖縄2jks）

2 実施事業の概要

2) 採択事業者一覧

		都市属性 (国際会議)		国際会議名	実証事業名	国際会議 の会期	日数	国際会議 参加者	実証事業 参加者 (国内外)	実証事業 参加者 (海外のみ)	参加費	備考	経費精算額
1	1次採択	グローバルMICE	[010] 横浜IEEE ICRA	ロボット工学とオートメーションに関する国際会議2024	日本各地の企業・大学と国外研究者との連携を促進するロボット博覧会&テクニカルツアー	5/13~17	5	6,829	130	50	1,000		辞退
2		グローバルMICE	[042] 北九州中津ABC	行動と振る舞いに関するABC2024国際会議	福岡県北九州市・大分県中津市連携国際会議の実施	5/28~5/31	4	72	72	42	1,500	概算	¥3,333,000
3		グローバルMICE	[046] 名古屋ISS	第 2 3 回乳幼児いけれん研究会国際シンポジウム	日本の祭り文化及び地元(愛知・名古屋)の染物文化を世界に発信	5/30~6/1	3	304	148	61	0		¥8,960,320
4		グローバルMICE	[025] 広島COC	第15回国際カマ類学会	日本の鍾乳洞観光ツアーと国際学会の融合を試みる：国際的学術活動で地域活性を	6/2~6/7	6	183	184	116	0		¥7,864,945
5		グローバルMICE	[007] 名古屋EADC	第 1 2 回東アジア地域ダム会議	国際学術会議活動の情報発信強化による関連インフラ施設と周辺の観光資源化の促進	6/3~6/7	5	275	89	57	28,500		¥5,127,088
6		グローバルMICE	[031] 横浜MSEAS	海洋社会・生態系システムシンポジウム 2024	海洋科学の国際学会MSEAS2024と地域社会が協働する「Art for MOTHER OCEAN」プロジェクト	6/3~6/7	5	207	127	85	0		¥5,288,924
7		中核	[027] 高松IIAI	第 1 6 回先進的応用情報学に関する国際会議	自治体と産業の広域連携により香川県をPRする国際会議のテーマパーク化	7/6~7/12	7	315	160	60	10,000	概算	¥10,516,000
8		グローバルMICE	[051] 札幌GEWEX-OSC	第9回全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議	地域産業と連携したテクニカルビジットの実施および開催都市外でのエクスカーション	7/7~7/12	6	901	75	43	5,000		¥9,126,816
9		グローバルMICE	[026] 広島IPS	第24回太陽エネルギーの光化学的変換・貯蔵に関する国際会議 (IPS24) / 人工光合成国際会議 (ICARP)2024	国際学術研究地域への誘客と東広島地区産業の国際化 西条酒蔵見学・ティスティング/最先端工場見学 (MICRON/サタケ) 酒蔵通り散策/座禅体験から地元酒蔵飲み比べ	7/28~8/2	6	403	119	63	0		¥6,296,650
10		グローバルMICE	[014] 京都ICE	第27回国際昆虫学会議	京都開催MICEから滋賀県へのエクスカーション・プログラム開発	8/25~30	6	-	-	-	-	-	¥8,846,282
11		グローバルMICE	[037] 広島ISHW	第24回国際ステラレータ・ヘリオトロンワークショップ	研究者コミュニティとスタートアップ企業を結ぶ新しい形のフュージョンエネルギー開発共同体の創造	9/9~13	5	231	52	26	0		辞退
12		中核	[021] 富山IIT	イオン注入国際学会	富山県に根差す産業と半導体産業の融合による新技術を生み出すための機会創出	9/20~26	7	386	216	122	0		¥10,906,568
13		グローバルMICE	[041] 京都STS	科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム	地域に貢献するビジネスマッチング・交流/開催都市外・高付加価値型・課題解決型エクスカーション 万博・企業と連携した公共性の高い府市民向けシンポジウムの実施	10/6~8	3	1,359	169	149	0		¥11,969,873
14		グローバルMICE	[028] 福岡IGLTA	IGLTA世界総会2024	IGLTA世界総会2024 福岡サテライト会議/メディアFAMトリップの実施	10/23~26	4	575	72	12	0		¥9,969,438
15		グローバルMICE	[024] 仙台ICPE	The 20th International Conference on Precision Engineering	学術的・観光的にバランスのとれたエクスカーションによる国内外研究者間の相互理解促進の試行	10/23~27	5	657	200	122	0		¥9,541,184
16		グローバルMICE	[035] 京都MNC	第37回マイクロプロセス・ナノテクノロジー国際会議	半導体加工プロセス技術セミナーとプロセス実習	11/12~11/15	4	582	220	30	0		¥2,496,750
17		グローバルMICE	[029] 北九州ACCS	第15回アジア化学センサ国際会議	北九州・下関海峡エリアの観光プログラム開発	11/17~20	4	325	158	70	0		¥4,147,880
18		中核	[015] 長崎HSR	第8回保健システム研究グローバルシンポジウム	「介護、防災、環境、障がい者支援、地産地消のイノベーション博覧会」	11/18~22	5	1,552	1552	1420	0		¥11,995,358
19		中核	[004] 松江APCFS	アジア太平洋破壊と強度の国際会議	開催都市外でのポストコンファレンスの実施	11/25~29	5	-	-	-	-	-	-
20	1次保留	政令	[047] 熊本ABMF	ABMI ASEAN+3 Bond Market Forum	国際会議 (ABMF) 参加者と地域金融経済関係者との相互理解及びネットワーキング	7/8~7/12	5	262	200	130	0		¥3,752,990
21			[040] 長野湾SPNHC-TDWG	SPNHC-TDWG合同大会2024	開催地の地域資源特色と専門家会議のテーマの高い親和性を最大限活かした先駆的国際会議モデルの創出	9/2~9/6	5	377	162	158	0		¥8,299,682
22			[016] 弘前EPRBioDose	第14回電子スピン共鳴による線量評価・年代測定および第9回国際生物学的線量評価に関する合同国際会議	開催都市外でのエクスカーション	9/25~28	4	89	36	30	0		¥1,664,261

2 実施事業の概要 2) 採択事業者一覧

		都市属性 (国際会議)		国際会議名	実証事業名	国際会議 の会期	国際会議 の 日数	国際会議 参加者	実証事業 参加者 (国内)	実証事業 参加者 (海外の)	参加費	備考	
23	二次採択	中核	【115】 岐阜DASFAA	第29回先進的応用のためのデータベースシステムに関する国際会議	「東海国立大学機構」(名古屋大学 & 岐阜大学) の航空宇宙研究拠点の活用による新たな観光資源の開発と、広域観光圏の形成	7/2～7/6	5	240	94	84	0		¥3,871,424
24			【108】 つくばHVIS	17th The Hypervelocity Impact Symposium	アジア初開催をきっかけとした宇宙産業の拡大	9/8～13	6	145	161	104	0		¥4,094,460
25		グローバルMICE	【102】 大阪SIHDA	第77回 国際古代法史学会	歴史・文化ハイエンド参加者を対象とした「知られざる」日本体験最大化実証	9/23～28	6	186	143	124	13,000	概算	¥4,739,304
26		中核	【106】 呉TEAM	第37回アジア太平洋船舶海洋構造工学会議	瀬戸内の都市間連携による海路・陸路を用いた新しいポストカンファレンスツアーの提案	9/25～28	4	152	152	77	0		¥5,499,990
27		グローバルMICE	【112】 仙台EcoBalance	第16回エコバランス国際会議	会議の環境負荷最小化のための取り組みを通じた世代・地域間連携の実践	11/3～7	5	625	36	23	0		¥5,631,907
28		中核	【107】 松江ALC	第15回新材料とデバイスの原子レベルキャラクタリゼーションに関する国際シンポジウム	「たたらで縁結び」一波及効果を広げるテクニカルビジットと地域貢献の融合ー	11/17～22	6	208	131	58	0		¥7,057,911
29			【110】 宜野湾2jks	第2回日本読聞節学会	沖縄MICEにおける地域クーポン発行を通じた文化体験および消費拡大	-	-	-	-	-	-	-	-
30	2次保留	グローバルMICE	【114】 東京R10 SYWLC	アイトルブルーリー リージョンデン エスワイダブリュエル コンgress 2024	サテライトワークショップ併催による参加者への地方都市アピール	8/29～9/1	4	332	332	205	7,000	概算	¥3,890,543
32		中核	【109】 松山AABE	アジア生物学教育協議会第29回隔年会議	国際会議開催によるMICE人材の育成と地域産業の活性化による国際対応の強化	10/12～15	4	240	60	20	5,000		¥4,798,767
33		政令	【113】 岡山OptoX-NANO	ユビキタス社会・再生エネルギー・ヘルスに資するナノマテリアル/デバイスを実現する光・X線計測技術に関する国際会議	MICEをきっかけとした「長期滞在型岡山観光モデル」	11/27～29	3	99	21	13	0		¥3,997,005

- ※ 【010】 ICRA横浜：経費精算の辞退
【014】 ICE京都：中止
【037】 広島ISHW：経費精算の辞退
【004】 松江APCFE：中止
【110】 宜野湾2jks：実証事業の辞退

3 実証事業の報告

3 実証事業の報告 1) 報告プロセス

本事業では国際会議への参加者数や開催効果を拡大するべく、国際会議における多彩な取り組みを促すこと、またコンベンションビューロー等には地域での開催効果や誘致力を高めるための新しいプログラム開発の機会を創出に加え、実施による経験・効果測定の機会を蓄積し、横展開に応用することを目指している。

そのため、下記のフローで実証事業の成果や課題、自走や横展開のポイントについて報告する。

1.参加者アンケートとヒアリングの結果報告

(1)国際会議や実証事業終了後に参加者アンケートを実施し、その結果を集計。

(2)集計結果を主催者やコンベンションビューローにフィードバックし、申請者へのヒアリングを実施。

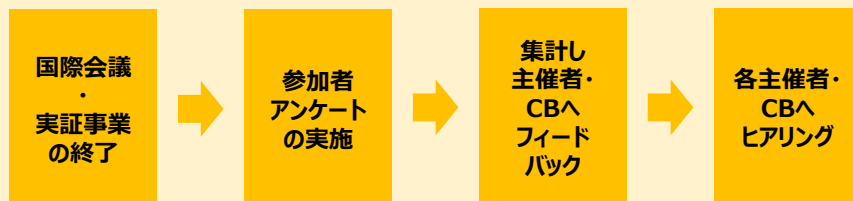
2.効果的な事業の抽出と考察

(1)参加者アンケートとヒアリングの結果を基に、効果的な優良事業事例やランキングが高い実証事業を抽出する。

(2)事業の成果、課題などを取りまとめる。

(3)継続的な開催効果拡大に向けて、今後のまとめを行う。

1.アンケート・ヒアリングの実施



2.効果的な事業の抽出と考察



3 実証事業の報告 2) 参加者アンケートの項目

○参加者アンケート

各国際会議および実証事業が終了後、参加者へメールやQRコードを用いてアンケート調査を実施し、集計を行った。
なお、申請者にはアンケート回収率は30%以上の取組を義務付けし、集計結果は主催者やコンベンションビューローへフィードバックも行った。

参加者アンケートの項目は以下の通りである。

基本属性	・年代、性別、参加国、職業
	・来日日数、同伴者数、滞在日数（日本）、滞在日数（開催地）
	・日本の情報収集
国際会議	・国際会議の満足度
	・企業と知的・技術的な交流、企業と懇親会やパーティー、地元住民と学生との交流
	・訪問先に対する知名度、訪問先に希望する距離・利便性
	・今回知った訪問地で再訪したい・知人に教えたい場所・移動手段・許容できる移動時間
	・プログラム目的の前泊や延泊
	・魅力的なプログラムの種類、好みのエクスカージョン
	・居住地から開催地までの往復交通費、国際線運賃、国際線のエアラインの種類、空港から開催地までの往復交通費
	・国内での消費金額平均
実証事業	・プログラムの参加、参加した理由、参加しなかった理由
	・プログラムでの消費額平均
	・プログラムの評価（時間、内容、費用、新規性）
	・プログラムのための早入や延泊
	・プログラムによる変化

※中止事業2件は除く（【014】京都ICE、【110】沖縄2jks）

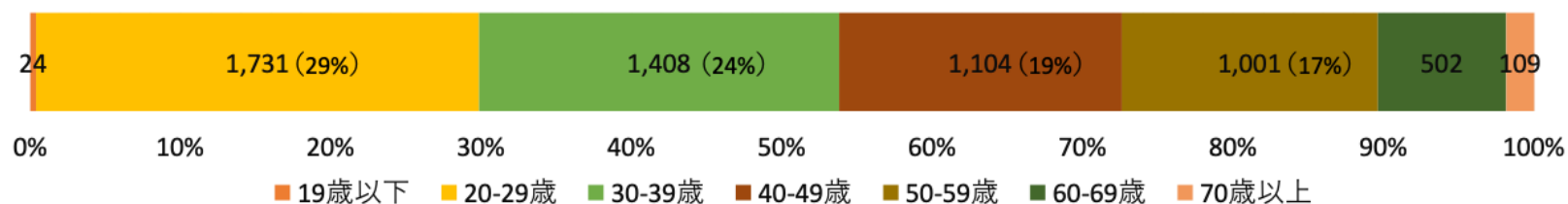
3 実証事業の報告 3) 参加者アンケートの基本属性

○参加者アンケートの集計結果

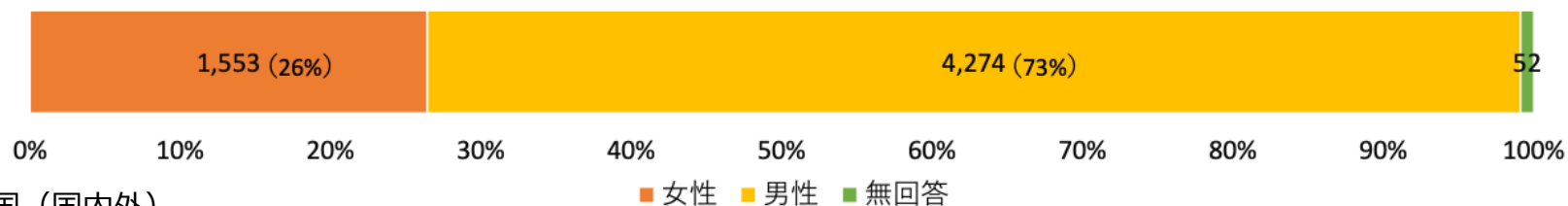
国際会議件数は30件に対して、国際会議参加者数は18,111人であった。うちアンケートの回答件数は5,879件で回収率は32.5%と回収率30%以上の取組は全ての実証事業で達成することができた。

国際会議件数（件）	国際会議参加者数（人）	アンケート回答件数（件）	回答率（%）
30	18,111	5,879	32.5

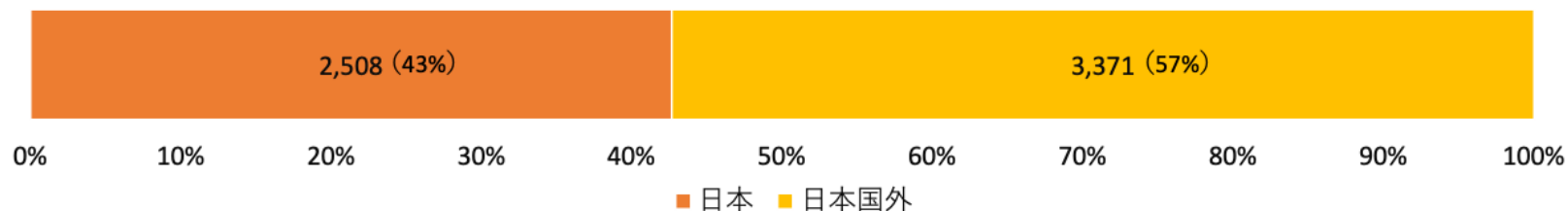
(1) 年代



(2) 性別

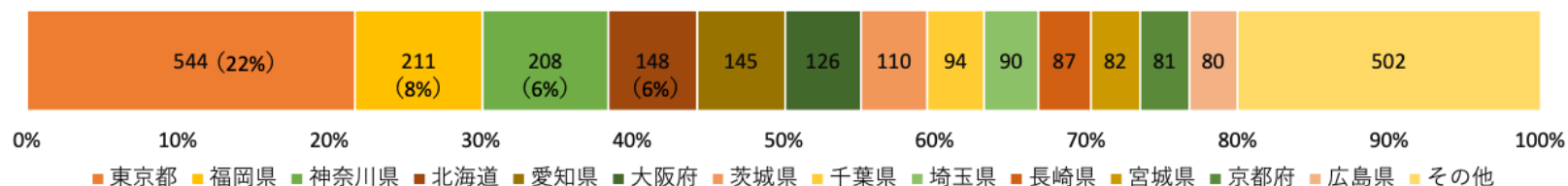


(3) 参加国（国内外）

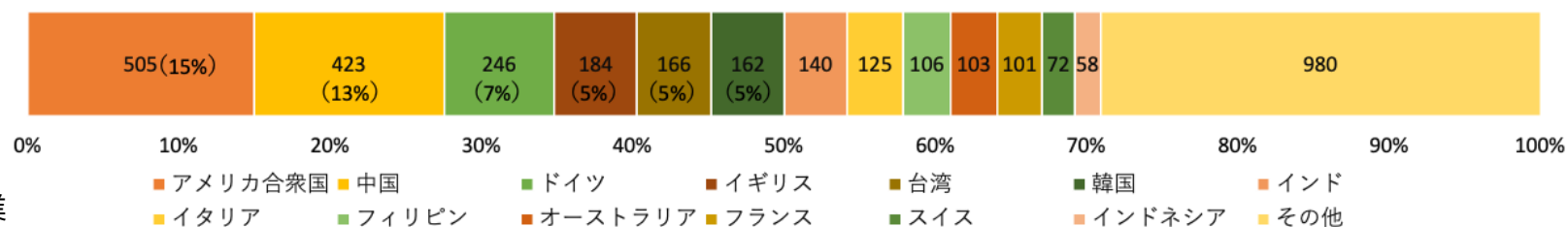


- ・国際会議参加者の年代は20代が約3割、30代が2.5割と20～30代が半数以上の割合。
- ・男性の割合は女性の約3倍である。
- ・海外の割合は全体の6割程度である。

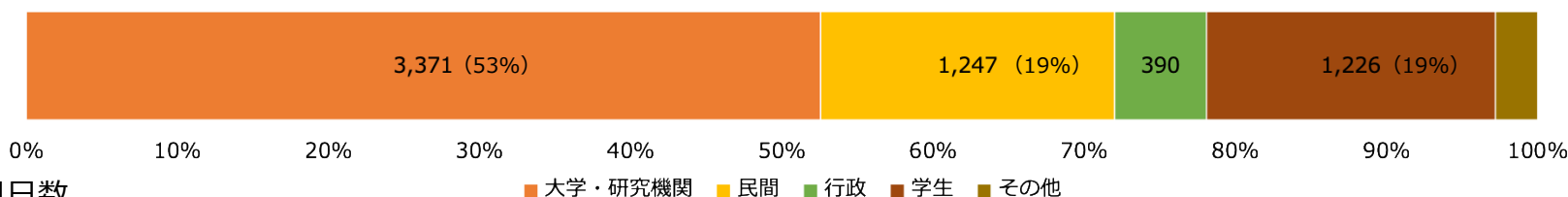
(4) 参加国（国内）47都道府県



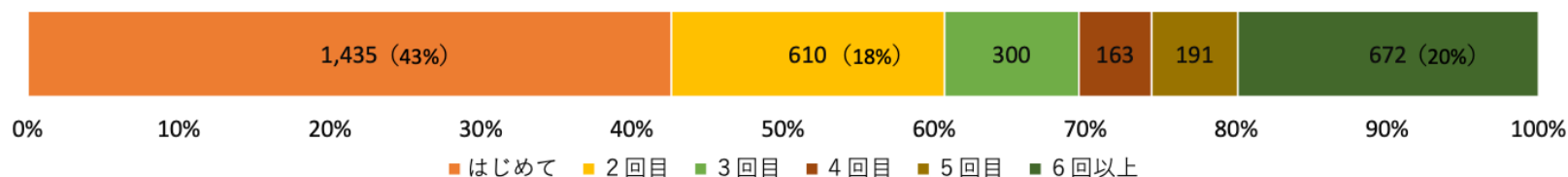
(5) 参加国（国外）93カ国・地域



(6) 職業

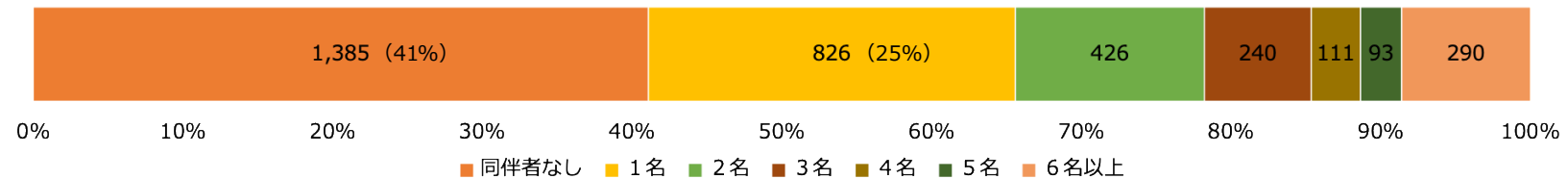


(7) 来日回数

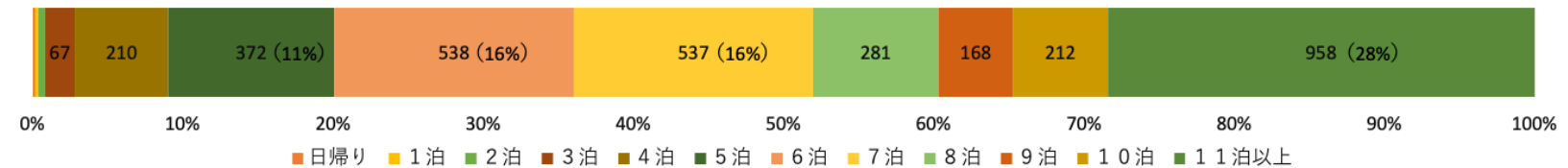


- ・海外の参加者は93カ国のアジア、アメリカ、ヨーロッパ、オセアニア、アフリカといった世界全地域から参加している。
- ・20～30代が半数を占めていることから、来日回数もはじめての回答が4割で、大学・研究機関の参加が半数だった。

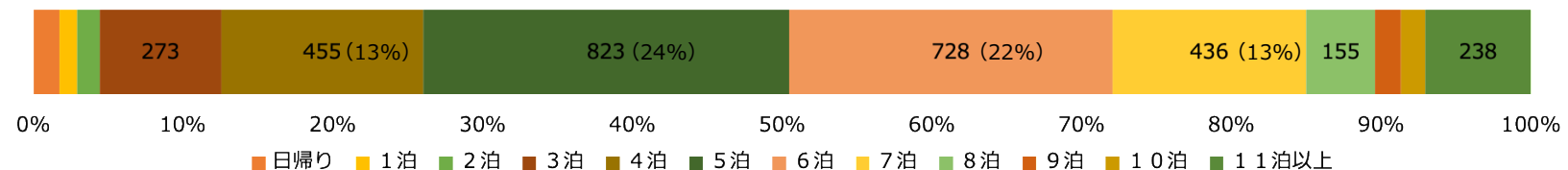
(8) 同伴者数



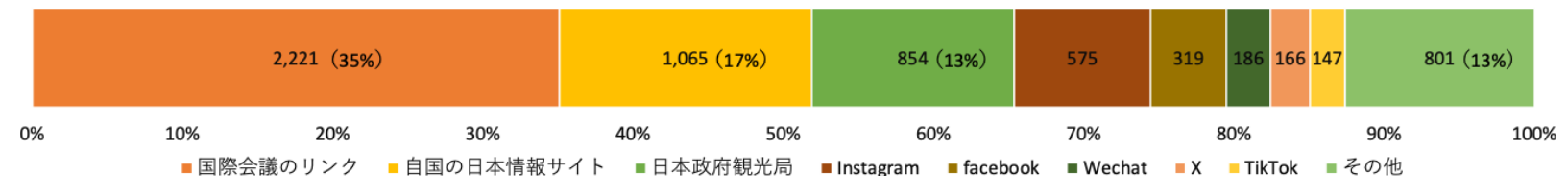
(9) 日本国内の滞在日数 ※日本国内の平均滞在日数は7.8日



(10) 国際会議開催地の滞在日数 ※国際会議の会期日数平均は4.9日



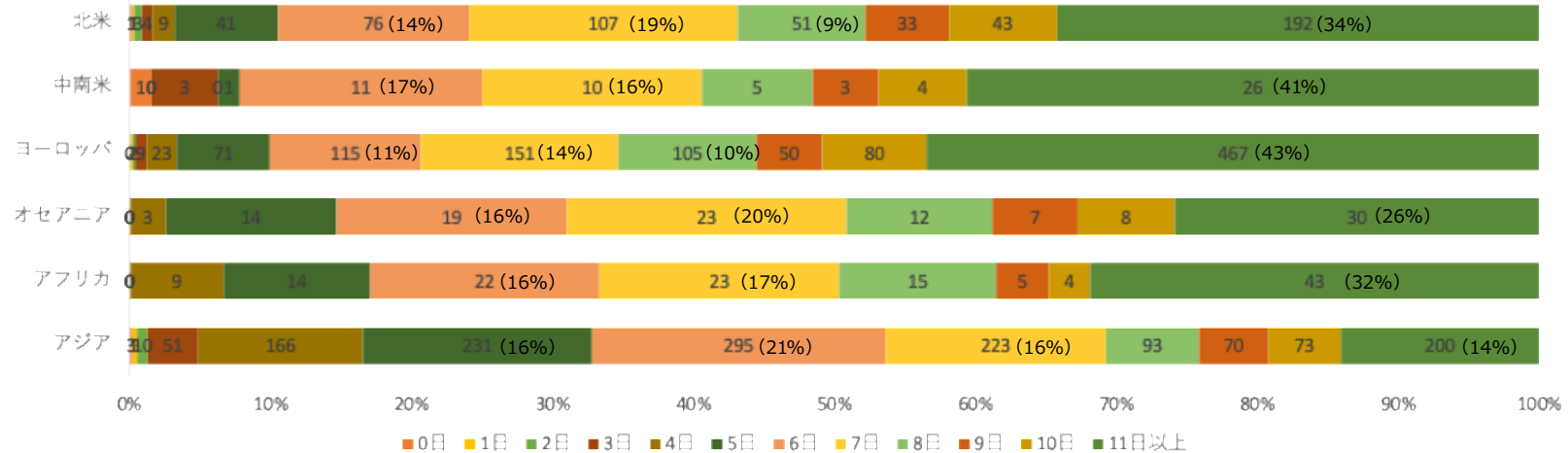
(11) 日本の情報収集源



- ・ 同伴者を伴う参加が約6割以上と多いことがわかる。
- ・ 国際会議の会期日数平均が5日に対して、日本国内の滞在日数が「11日以上」の割合が最も高いことは多くの参加者が会議以外の日程を国際会議開催地以外で過ごしている。
- ・ 日本の情報収集は3.5割が「国際会議のリンク」と最も高い数字であることから、国際会議のページ上に必要な情報を載せることは大事であると言える。

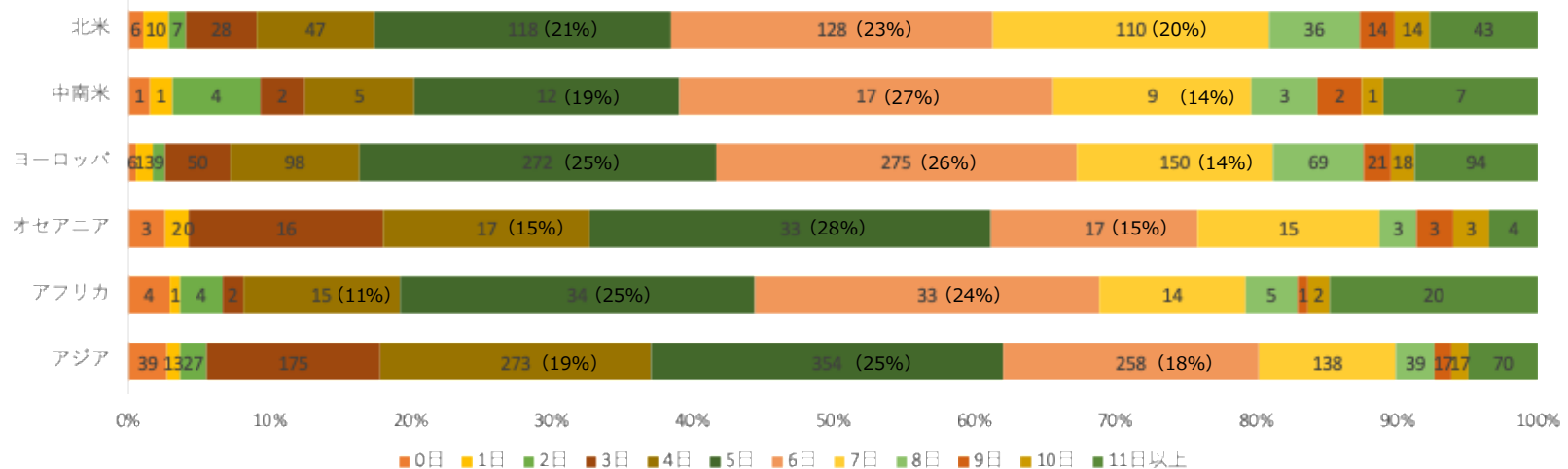
(1 2) エリア別 日本国内の滞在日数

※日本国内の平均滞在日数は7.8日



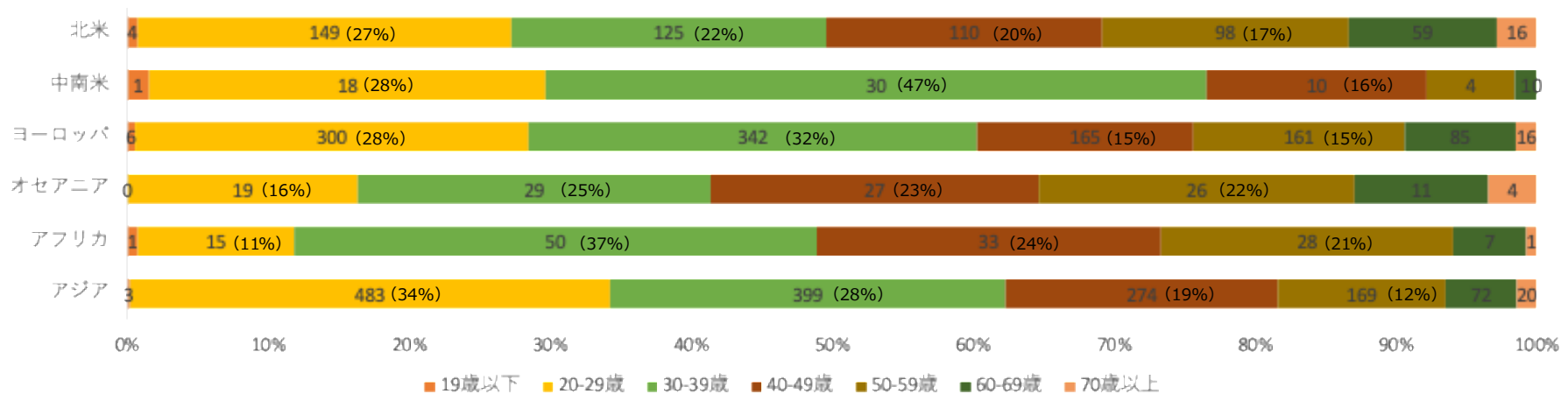
(1 3) エリア別 国際会議開催地の滞在日数

※国際会議の会期日数平均は4.9日

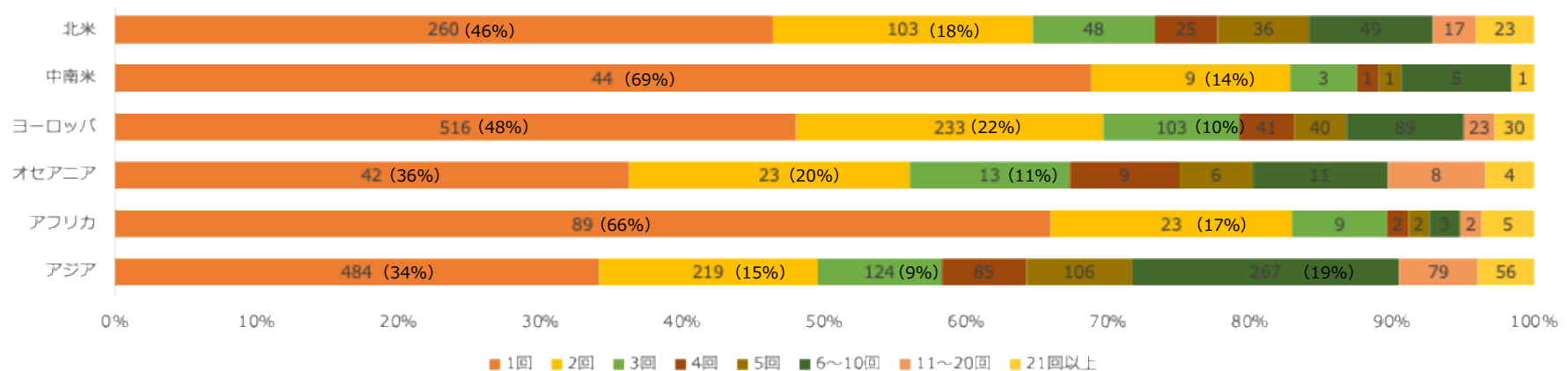


- ・ アジアを除くエリアは国際会議の会期日数平均が5日に対して、日本の滞在日数が「11日以上」の割合が最も高く、前ページの来日回数が「1回（はじめて）」の割合も高いことから、多くの参加者が会議以外の日程も日本で過ごしている。
- ・ 開催地以外での滞在日数も多いことから、次年度以降の調査では残りの期間を過ごす目的、地域などの設問も有効と考えられる。

(14) エリア別の年代

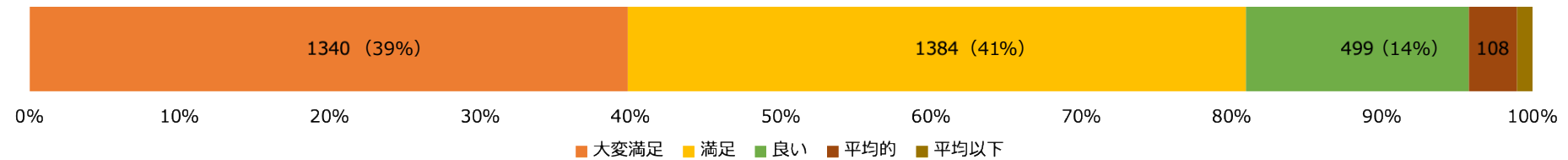


(15) エリア別の来日回数

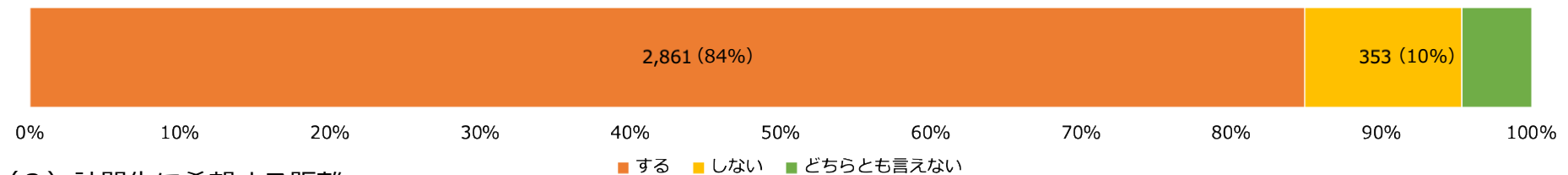


- ・ エリア別ではアジア、ヨーロッパ、北南米は20～40代、アフリカ、オセアニアは30～50代が7割以上の割合。
- ・ 全てのエリアで「1回（初めて）」の来日回数の割合が最も高い一方で、アジア、ヨーロッパ、中南米は「6～10回」の割合も高い。
- ・ エリア別では前ページにあるように近距離のアジアは短期滞在型の結果となっている。また来日回数は半数近くがリピーターであることから、アジアからの参加者が多い場合はリピーターを意識した開催効果をあげる取組を検討する必要がある。

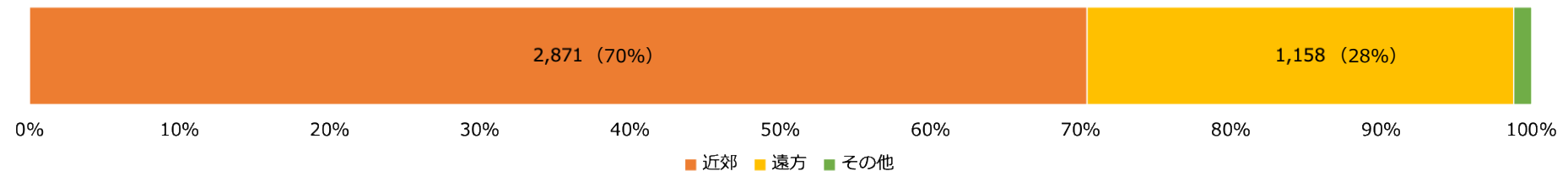
(1) 国際会議の満足度



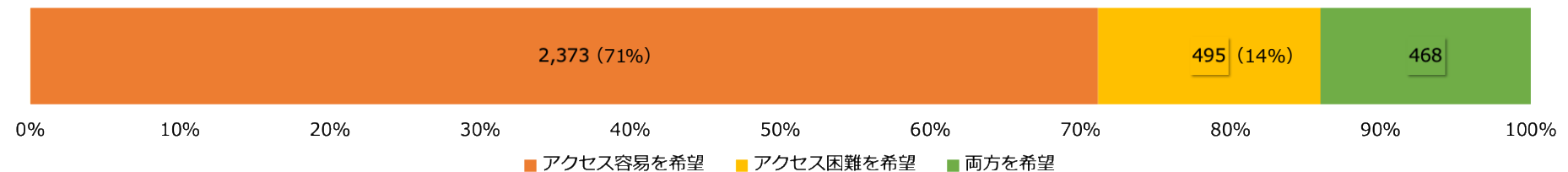
(2) プログラム目的の宿泊や延泊



(3) 訪問先に希望する距離

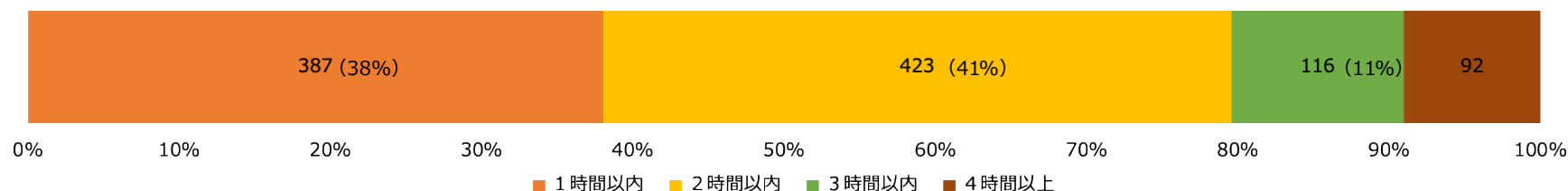


(4) 訪問先に希望する利便性



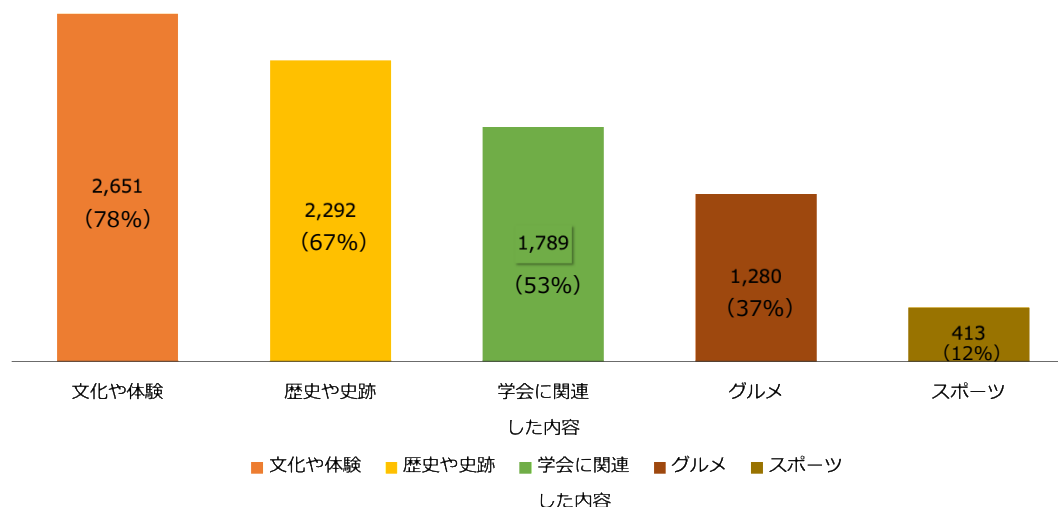
- ・参加者満足度は「大変満足」「満足」かを占める割合が大半である。
- ・プログラム目的の前後泊は8割以上が必要としている。
- ・訪問先に希望する距離は7割以上の参加者は近郊でアクセス容易な場所を希望している。
- ・遠方を希望する割合も約3割存在する。

(5) 許容できる移動時間



(6) 好みのエクスカーショ等 (複数回答)

(7) 国内での消費額平均 * 1US\$ = 150円で算出



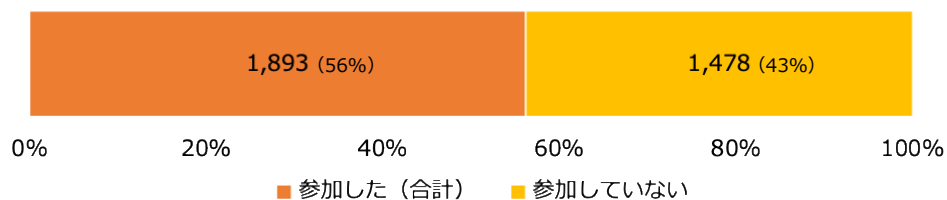
438,350円

※交通費・宿泊費含む、参加費用は含まれない

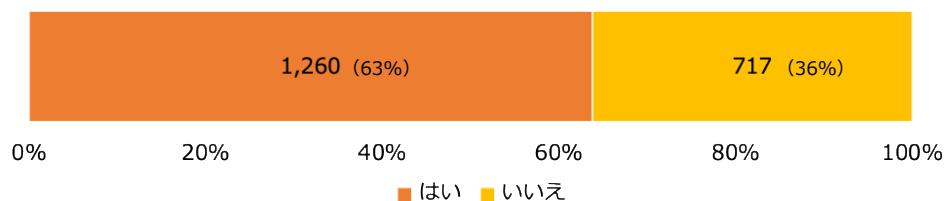
※観光庁 令和5年度MICE総消費額等調査事業では
参加者一人当たりの消費額は
453,395円 (医療以外×三大都市圏)
※参加費用含む

- ・ 移動に関して許容できる時間は1～2時間以内が約8割以上である。
- ・ エクスカーションは文化や歴史体験、また学会に関連した内容を希望している参加者は半数以上である。

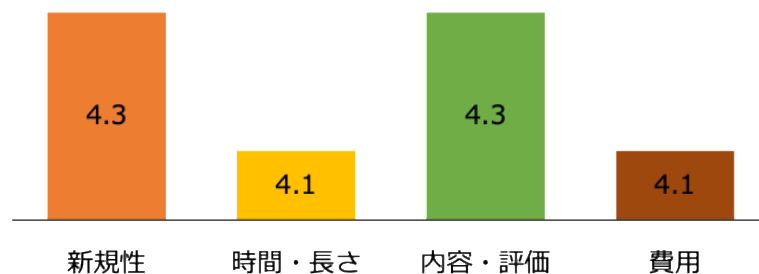
(1) 実証事業の参加



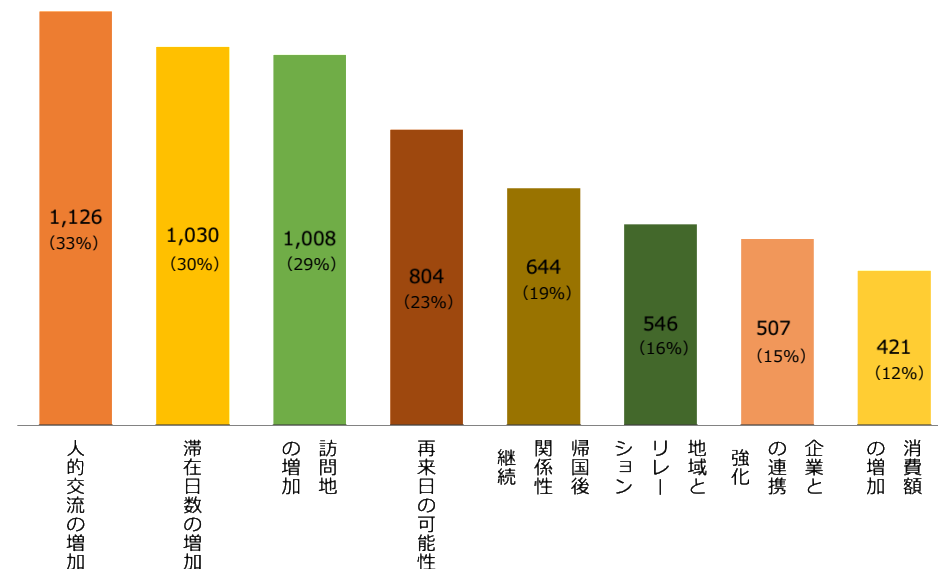
(2) 実証事業のための早入や延泊



(3) 実証事業の評価 (5点満点)



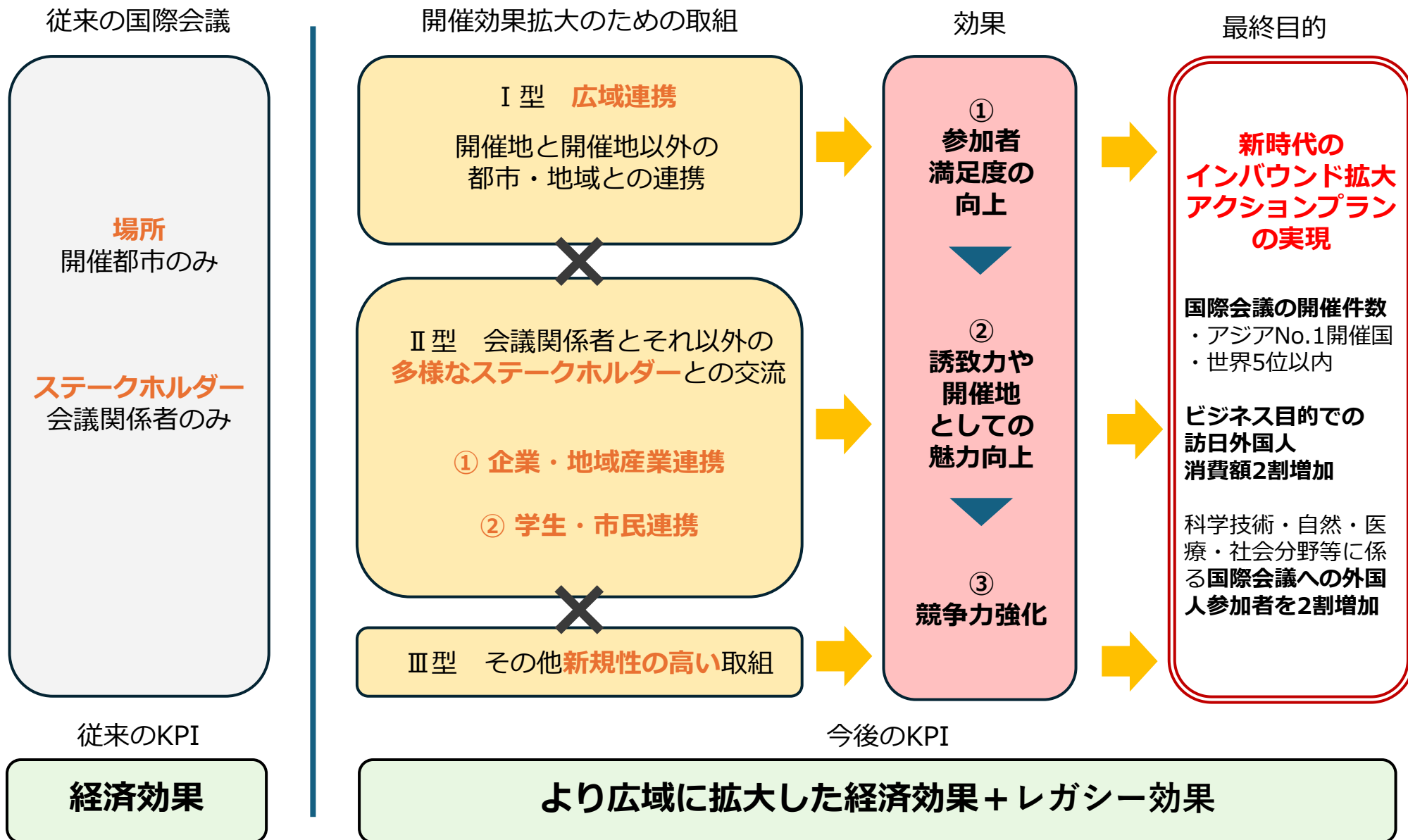
(4) プログラムによる変化 (複数回答)



- ・今回の実証事業では「新規性」や「内容・評価」に対する評価が高い。
- ・2割以上の参加者が「再来日の可能性」を回答している。

4 実証事業からの考察

本事業は「国際会議の開催効果の拡大」を目的としているため、以下のとおり整理する。



4 実証事業からの考察 2) 実証事業の分類

本事業で採択された**30件の国際会議で実施された様々な取組の分類** ※中止事業2件は除く（【004】松江APCFE、【110】沖縄2jks）

	実証事業	I 型	II 型		III 型
		広域連携	多様なステークホルダーとの交流		その他の取組
			企業・地域産業連携	学生・市民連携	
1	【010】横浜IEEE ICRA		○		
2	【042】北九州中津ABC	○			
3	【046】名古屋ISS	○			
4	【025】広島ICOC	○			
5	【007】名古屋EADC	○			
6	【031】横浜MSEAS		○	○	○
7	【027】高松IIAI	○	○		
8	【051】札幌GEWEX-OSC	○			
9	【026】広島IPS	○	○		
10	【014】京都ICE	○		○	
11	【037】広島ISHW		○		
12	【021】富山IIT	○	○	○	
13	【041】京都STS	○	○	○	
14	【028】福岡IGLTA	○		○	○
15	【024】仙台ICPE	○	○		
16	【035】京都MNC		○		
17	【029】北九州ACCS	○			
18	【015】長崎HSR	○	○		
19	【047】熊本ABMF		○	○	
20	【040】宜野湾SPNHC-TDWG	○			○
21	【016】弘前EPRBioDose	○			
22	【115】岐阜DASF AA	○			
23	【108】つくばHVIS		○		
24	【102】大阪SIHDA	○			
25	【106】呉TEAM	○			
26	【112】仙台EcoBalance		○		○
27	【107】松江ALC	○			
28	【114】東京R10 SYWLC	○			
29	【109】松山AABE			○	○
30	【113】岡山OptoX-NANO	○			
合計		22	13	7	5

1) 取組の難易度と成果

取組の難易度順は、I 型<II 型<III 型となる。I 型は、エクスカーションを請け負うエージェントが担いCBの業務は手離れが良い。それに対してII 型では、関係者との調整に時間と手間を要する。その分、レガシーとして今まで見出すことの出来なかった国際会議における企業連携や視察、学生や市民との連携など新しい成果が生まれている。III 型ではさらに、過去にはない取り組みが生まれ、様々な登場人物が新たな関係性を構築し、地域の受け入れレベルを向上させている。

2) 型ごとの違いと考察

I 型は地域の観光資源などを含む様々な豊かな彩りあるエクスカーションが多く見られた。国際会議のテーマに寄り添った内容も多いが、観光地を巡る内容も少なくない。一方でII 型は、国際会議のテーマにフォーカスしているため参加者の学術的な要求を満たす内容が大半である。これらから、I II III型の選択や複合的な組み合わせなど、地域にあった工夫した企画立案が必要と考える。

30件の国際会議で実施された具体的な取組事例 ※太字：特に効果が高かったと思われる事例

分類		具体的な取組事例	件数
I 型	広域連携	●開催地外へのエクスカーション（＝広域エクスカーション） ●開催地外でのサテライト会議（二都市開催・開催期間外の実施を含む） ●開催地外でのバンケット（ツアー後に実施） ●開催地外の自治体の紹介展示・PR（同県内別地域を含む） ●開催地外の郷土芸能・文化遺産等の紹介（地域文化資源の活用）	22
II 型	① 企業・地域産業連携	●企業へのテクニカルビジット ●企業とのネットワーキング・ビジネスマッチング ●会議内でスタートアップ企業による自社事業プレゼン ●企業展示・デモンストレーション ●地元企業参加者を対象とした技術セミナー ●地域産業の協力を得たツアー・バンケット ●地域の物産展示即売・物産紹介 ●地域の文化・伝統工芸を学ぶワークショップ	13
	② 学生・市民連携	●学生を招待したワークショップ ●学生によるポスターセッション・アワード授与 ●学生によるMICE運営参画 ●市民参加のセミナー・ワークショップ ●会議参加者と地元の子供たちの交流企画	7
III 型	その他 新規性の高い取組	●サステナブルなMICE運営・会議運営の環境負荷最小化の取組 ●観光関連事業者に対するハラル講習会の実施と会議での飲食提供 ●MICE人材育成・運営・事前事後研修（MICE人材バンク設立） ●CBによる自主的なサテライト会議・FAMトリップの主催 ●観光事業者に対するLGBTQツーリズムに関する講演会	5

4 実証事業からの考察 3) 具体的な取組事例

次ページよりⅠ型～Ⅲ型の中でも特に効果の高かった優良事例とそこから見えた成果のまとめを示す。30事業の中から取組が特徴的かつ事業の特色をよく現したものを優良事例として選択した。

分類			優良事例	
Ⅰ型	広域連携		－ 広域エクスカージョン（【015】長崎HSR）	P.24,25
			－ 広域エクスカージョン（【016】弘前EPRBioDose）	P.26,27
			－ 広域エクスカージョン（【102】大阪SIHDA）	P.28,29
			－ 開催地と他地域の自治体・CB連携（【026】広島IPS）	P.30
			－ 開催地と他地域の自治体・CB連携（【027】高松IIAI）	P.31
Ⅱ型	①	企業・地域産業連携	－ 企業とのネットワーキング・ビジネスマッチング（【041】京都STS）	P.33
	②	学生・市民連携	－ 学生参加のワークショップやポスターセッション（【021】富山IIT）	P.36
Ⅲ型	その他 新規性の高い取組		－ サステナブルな取組（【112】仙台Eco-Balance）	P.38
			－ ハラル対応とMICE人材育成（【109】松山AABE）	P.39

また、催行人数不足により中止になった実証事業（【004】松江APCFE）を P.41 にて示す。

015 長崎HSR	会議名	第8回保健システム研究グローバルシンポジウム
	実証事業名	「介護、防災、環境、障がい者支援、地産地消のイノベーション博覧会」
	概要	五島市で離島医療の最先端技術と現場体験を組み合わせたテクニカルビジット（①介護分野の人材育成②ドローンの医療品輸送視察、③持続可能な社会の構築に向けた地域連携）と情報交換会を実施。また、国際会議期間中は介護、防災、環境、障がい者支援、地産地消分野の先進的な取組を展示するイノベーション博覧会を開催。

■ 広域エクスカージョン



■ 事業のポイント

- 国際会議の開催効果が長崎市の一部地域・業種に留まらず、**五島市という他の地域へ波及**。
- 五島市のテクニカルビジットでは自治体、地元企業、学術機関、民間企業を巻き込む**産学官民が連携**し、国際会議に関連した保健医療の座学だけでなく、**実践的な学びの機会（運用・テクノロジーの視察・体験）**を提供。（既存コンテンツをストーリー仕立てで展開）
- 情報交換会では参加者と五島市の自治体や医療保健に留まらない**様々な業種の地元事業者**が交流。
- 海外110か国からの学会参加者が集まるウェルカムレセプションを「イノベーション博覧会」として開催し、**新たな交流と情報発信の場**を提供することで、学術と産業界の橋渡しを強化し、国際的事業展開の視野を拡大。



実際にドローンを飛ばして治療薬を空から配達



長崎のランタン演出によるおもてなし

■ 得られた成果

- 長崎県初の大規模な国際会議を**産学官民が一体**となって受け入れ体制を**構築した**。(参加110カ国、参加者1,552名)
- イノベーション博覧会や五島市の情報交換会を通して、国内企業と海外参加者が直接対話する機会を提供。単なる**学会の枠を超えた**多層的な交流の場は**参加者の満足度向上**にも繋げることができた。
- 産学官民が連携し、**国際会議関連の既存コンテンツ**を組み合わせた離島医療の**実践的な**新しい学びの場は多くの参加者から「自国の課題解決に役立つ具体的な知識やアイデアを得ることができた」と評価された。
- 離島エクスカージョンは宿泊や飲食、地域産品の購入、交通など五島市の地元産業への**直接的な経済効果も創出した**。

■ 参加者評価

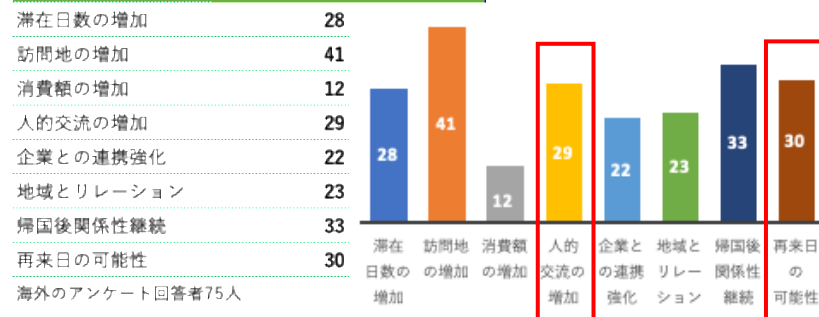
(ヒアリングより)

- 他の学会参加者にも五島の訪問を勧めたい。
- 時間通りの遂行など、イベント運営の緻密さが素晴らしかった。
- 長崎市から五島市への長距離移動は特に気にならなかったし、五島市はとても良かった。

(アンケートより)

- 五島の歴史はとてもユニークで人口減少など、島が直面している問題は非常に懸念される。また、その問題を解決するために島で起こっているイノベーションも素晴らしいと思った。
- 他の国では体験できないもの。
- 素晴らしいプログラム、情報量の多いコンテンツ、素晴らしいホストでした。

36. プログラムによる変化 (五島エクスカージョン)



海外参加者の約40%は「五島市の再訪」「交流の増加」を回答

40. イノベーション博覧会の評価



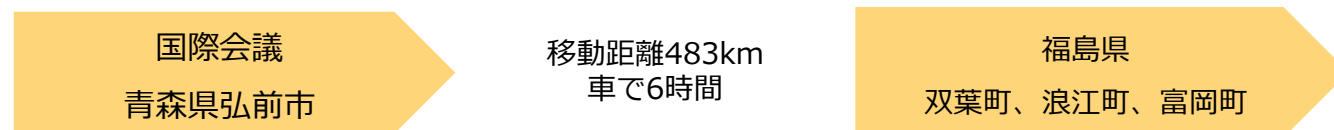
どちらも「新規性」や「内容・評価」の点数が高く、参加者の満足度が高いことが分かる

○類似他事例

- 【051】札幌GEWEX-OSC：札幌、当別町の2箇所で開催テーマに基づく、上流～下流までの水の働きを学ぶストーリー性の高いエクスカージョン。
 【024】仙台ICPE：会場仙台を除く、宮城県4つの地域で学術施設と景勝地4つのエクスカージョンを行い、ツアー後総括の場を設けた。

016 弘前 EPRBio Dose	会議名	第14回電子スピン共鳴による線量評価・年代測定および第9回国際生物学的線量評価に関する合同国際会議
	実証事業名	国際学術会議活動の情報発信強に関連した化による関連インフラ施設と周辺の観光資源化の促進
	概要	電子スピン共鳴（EPR）および細胞遺伝学的手法を用いた放射線の生物学的線量評価に携わる世界各国の研究者が一堂に会する国際学会。1998年から25年近くにわたり本分野の中心的な国際会議として位置づけられている。各国からの強い要望があり、日本で初の対面式開催。

■ 広域エクスカージョン



■ 事業のポイント

- 東日本大震災と津波に伴う原子力災害を、**海外では発信されていない事故直後の記録や映像を視聴し、原子力災害伝承館を見学。**
- 福島第一原発事故により全校休校となった浪江町の小中学校の教育再生を学び、教育に携わる**被災自治体と学会に参加する海外専門家の意見交換の場**を創出。（レアな現場と現地とのコミュニケーション）
- 被災地から採水した水より製造したペットボトル飲料水を提供し、福島県産食材の安全性の理解を促進。



東日本大震災・原子力災害伝承館の見学



浪江町教育再生（講話）

■ 得られた成果

- 放射線被ばく線量を推定する専門学会の参加者は原子力災害への関心度が高く、福島訪問へ関心も高かったことで、今回の企画は**非常に満足度の高い結果**となった。
- さらに参加者が被災地を訪問し、記録や実物を見学するだけでなく、被災地の街並み、生活する住民を**直接目にする効果**は絶大。
- 弘前大学被ばく医療総合研究所では継続的に海外連携機関から研修生を受け入れており、**終了後も今回のコース訪問を計画している**。
- 福島県観光物産交流協会は過去インバウンドの大人数の受入実績は少なかったが、今回の事業で**弘前大学との連携構築**を機に、**県外の遠方エクスカージョンの受入実績**ができた。

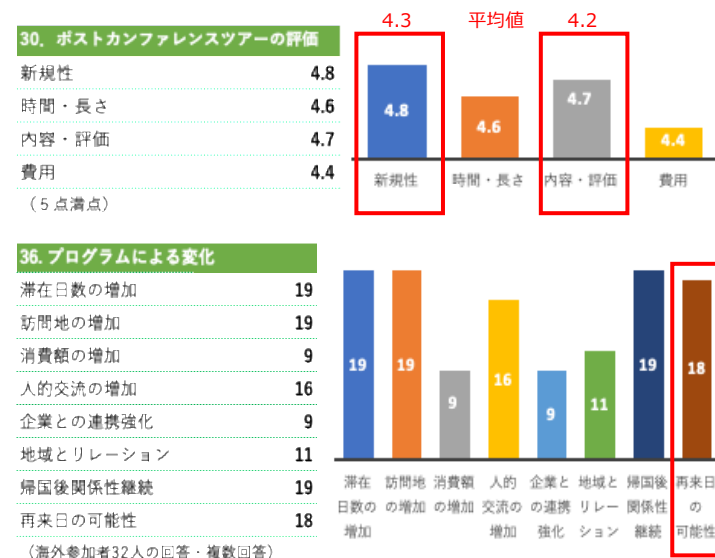
■ 参加者評価

(ヒアリングより)

- 移動時間は長かったが、個人で行くことを考えると乗り換えや荷物の移動を考えると楽だった。
- 福島の現状をもっと知ってもらうために、このツアーを他の人にも紹介したい。
- テレビ中継やソーシャル・メディアで見るのと実際に見るのとでは全然違う。個人的には多くのことを学んだ。
- このツアーを通して地域社会の回復力と復興が進み、安全で活気のある住みやすい場所になっていることを実感した。

(アンケートより)

- 地域の方々の貢献で他ではできない体験ができた。
- 会議全体と会議後の福島県へのツアーは素晴らしく、有益でした。
- すべてが完璧に組織されており、科学的および社会的プログラムが素晴らしかった。



○類似他事例

【007】名古屋EADC：国際会議場所とは異なる学会のテーマに関連した岐阜県、長野県にあるダムへ技術見学や周辺の観光。二次活用としてダムにて貯蔵された日本酒を配布するなど、学術面のみならず文化面でも地方観光資源の掘り起こしを行う。

【031】横浜MSEAS：横浜で会議後、エクスカージョンは葉山エリアへ移動し、学会テーマと関わる鮮魚店と女性漁師のもとに訪問。

102
大阪
SIHDA

会議名

第77回 国際古代法史学会

実証事業名

歴史・文化ハイエンド参加者を対象とした「知られざる」日本体験最大化実証

概要

大阪府能勢町の浄瑠璃鑑賞と体験、地元品の販売。その後、大阪城でのBBQディナーを実施。日本の宗教観と食の融合体験として住吉神社での無言詣りを体験後、吉祥殿にてガラディナーを実施。会議最終日は一般観光では訪れにくい歴史文化関連施設見学として比叡山、嵐山、宇治の3コースでエクスカージョンを実施。

■ 広域エクスカージョン

国際会議
大阪府大阪市

移動距離41km
車で1時間

大阪府能勢町
人形浄瑠璃

移動距離41km
車で1時間

大阪市内
大阪城BBQ

■ 事業のポイント

●大阪大学の能勢町浄瑠璃の研究者の先生による解説や英語の字幕、鑑賞後、参加者が実際に人形を動かしたり、演じている町民の方々と交流する等、**ただ鑑賞するだけでない体験を実施。**(大阪市にはない、**そこでしか体験できない希少なコンテンツ**である)

●**大阪城の夜景を臨む場所でのBBQ**や貸切の厳かな雰囲気の中で唄や演奏、巫女の舞を行った住吉大社ガラディナーの**特別感のある**内容。

●歴史や文化に造形の深い参加者に対してガイドによる細やかな解説と歴史の深さ・自然の魅力という、**市内観光などでは味わえないこのコースならではの価値**を提供。


浄瑠璃上演後参加者も体験



大阪城のライトアップを間近に眺めながらBBQ

■ 得られた成果

- 学術プログラムに留めず、日本の歴史・文化への関心が極めて高い参加者に対して、多岐に渡る体験型のプログラム（浄瑠璃体験や住吉大社参拝体験、エクスカージョン）は**参加者の満足度が高い**。（右図、参加者アンケートの各プログラム評価）
- 従来、大都市中心部（大阪市）での観光にフォーカスしてきたが、**地方（能勢町）の「知られざる」観光資源のポテンシャルを再認識した**。
- 高度な日本の文化体験を例示することが出来たので、**他の国際学会**でハイエンドの文化的体験が求められた時に**実施可能な取り組み**を提供できる。

■ 参加者評価

（ヒアリングより）

- ライトアップした大阪城のBBQは間近で綺麗な景色を見る事ができたので名残惜しく、印象に残る体験だった。
- 近年のSIHDAの中でも非常に良かった。

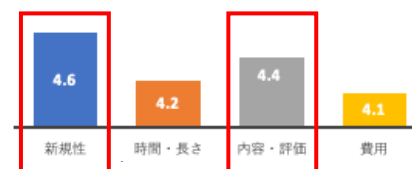
（アンケートより）

- 能勢町浄瑠璃シアターは個人ではなかなか行きづらいと思うので、とても良い経験だ。
- これは旅行ガイドには記載されていない光景だ。
- 今まで何も知らなかった、とても素敵で印象的なイベントだった。

30. 浄瑠璃観劇・大阪城BBQの評価

新規性	4.6
時間・長さ	4.2
内容・評価	4.4
費用	4.1

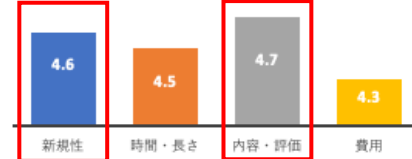
（5点満点）



40. エクスカージョンの評価

新規性	4.6
時間・長さ	4.5
内容・評価	4.7
費用	4.3

（5点満点）



どちらも「新規性」や「内容・評価」に対する点数が高く、参加者の満足度が高いことが分かる

○類似他事例

- 【040】沖縄SPNHC-TDWG：国際会議開催地と地域外を含む、沖縄県内のSDGsやサステナブルな計8コースのエクスカージョンとツアー。
- 【107】松江ALC：会議場所の松江から鳥取県へ移動し、ポストカンファレンスツアー。路面電車を貸し切り、バンケットを開催。

026 広島 IPS	会議名	第24回太陽エネルギーの光化学的変換・貯蔵に関する国際会議/人工光合成国際会議
	実証事業名	国際学術研究地域への誘客と東広島地区産業の国際化
	概要	会議の中日の午後、4つのコース(①酒蔵見学と酒のテイスティング、②マイクロンメモリジャパン見学、③サタケ工場見学、④安芸国分寺での座禅・におい袋作成)に分かれ、東広島市での企業視察や体験 夕方には東広島市庁舎展望レストランに集合し、交流会を実施

■ 事業のポイント

- 広島市内で開催された国際会議のツアー訪問先として**東広島市**に選定
(東広島市は**これまで国際会議の開催にあまり関わってこなかった自治体**)
東広島市の米国半導体企業や、地元産業の視察、日本文化体験プログラム等を実施
- ツアー後、**東広島市庁舎展望レストラン**での交流会を実施
東広島市長が歓迎の挨拶を行い、市役所職員が案内誘導を行う等、**市役所全体で参加者を歓迎**
地場産業である酒蔵の杜氏による日本酒解説や鏡開き、効き水など**地元ならではの企画**を実施

■ 得られた成果

- 東広島市市に歓迎の挨拶いただいたことで、海外参加者の満足度が向上し、市長自らに**国際会議の有効性を体感**いただけた。
- 西条の酒蔵等、地元産業の方々にも**国際会議の有効性を実感**いただけた。
- 広島市のベテラン通訳ガイドの派遣により、東広島観光協会が育成中のインバウンドガイドの**ブラッシュアップの機会**を提供できた。
- 新たなエクスカーション先を得て、**広島市の国際会議誘致力を向上**できた。



東広島市長と国際会議参加者



西条7鞆飲み比べ

○類似他事例

- 【107】松江IALC : 松江で開催された国際会議のバンケットを初めて出雲市で開催。出雲市長が歓迎挨拶を行い国際会議を体感。
- 【113】岡山OptoX-NANO : エクスカーションで訪問した浅口市長自らツアー企画に関わり、当日も同行しツアーを盛り上げた。

027 高松 IIAI	会議名	第16回先進的応用情報学に関する国際会議
	実証事業名	自治体と産業の広域連携により香川県をPRする国際会議のテーマパーク化
	概要	テーマパークのアトラクションのように、香川県の食文化・産業・郷土芸能などを「見る・聞く・食べる・触れる・学ぶ」ことができるソーシャルイベントや体験型観光を実施

■ 事業のポイント

- 高松CBから香川県内の他自治体に声をかけ、ツアー訪問先の紹介や会議会場でポスターやパンフレット、物品等の紹介展示を実施（県及び5つの市町村が参画）
- 県内各地（小豆島等）の郷土芸能保存団体を日替わりで招聘し会議会議場で披露
- 高松市市場管理課の協力により高松中央卸売市場（うみまち商店街）にてバンケットを実施。商店街の飲食店に協力を呼びかけ、9店舗に協力いただき屋台形式で提供

■ 得られた成果

- 国際会議の開催経験がない自治体も出展し、自治体の方が実際に国際会議の様子を見学する等MICEに対する意識向上の機会を提供できた。
- 丸亀市の協力による「ボートレースまるがめ」や農業試験場果樹研究所など、新たなツアー訪問先を発掘できた。農業試験場としては農業関係者以外を受け入れたのは初の試み。
- 普段地元の方に向けて披露することが多い郷土芸能保存団体の方々に、海外参加者に対して、披露する機会を提供できた。



丸亀市の横断幕



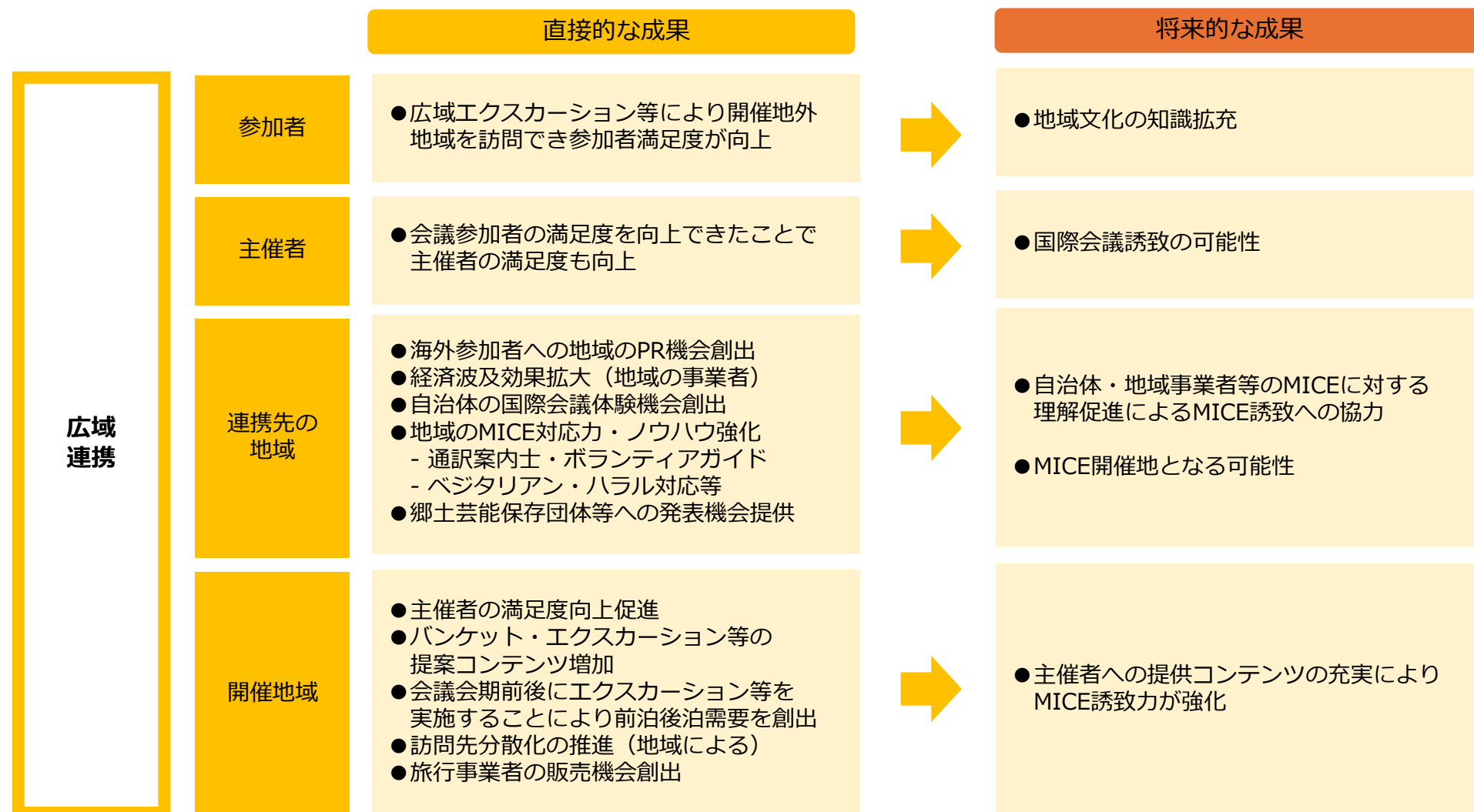
小豆島 石節

○類似他事例

【042】北九州中津ABC: これまで国際会議経験が無い中津市観光課の担当者がディナーを視察。北九州との今後さらなる協力体制を目指す。

【046】名古屋ISS : 名古屋での国際会議に隣の岐阜県のユネスコ無形文化遺産「郡上おどり」保存会の方々を招き、参加者に披露。

実証事業に関わった主催者、CB等へのヒアリング結果から「広域連携」における成果をまとめる。



041 京都 STS	会議名	科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム
	実証事業名	地域に貢献するビジネスマッチング・交流/開催都市外・高付加価値型・課題解決型エクスカージョン/ 万博・企業と連携した公共性の高い府市民向けシンポジウムの実施
	概要	地元主催レセプションに、地元事業者のブース出展・プレゼンを実施。会議参加者向けに京都府全域に亘る特別感のあるエクスカージョンを実施。府市民向けの市民公開講座をオンライン配信を含め開催。

■ 事業のポイント

- 例年、国際会議参加者と関係者のみが参加する地元主催レセプションに、初の試みとして地元企業によるブース出展を行い、参加者と地元企業との交流を生み出す機会を創出。ブースには、専属通訳者と配置し、専門用語でのコミュニケーションも円滑に進むよう支援した。
- 出展には、実行委員会メンバーである京都商工会議所関連団体やけいはんなを通じてスタートアップ企業やベンチャー企業等13社が参加。

■ 得られた成果

- 全ての参加企業**より「出展により多くの会議参加者と交流することができた」との**評価**があった。
- 飲食を伴う場で、世界の科学技術を牽引する著名な研究者と地元企業が、製品に触れたり自由な意見交換を行う機会はこれまでほとんど設けられていなかったことから、**新たな販路やコネクション開拓等の新たなビジネス機会の創出**となった。
- MICE開催を通じた**地域への還元の新しいモデルケース**を作ることができた。



企業ブース



ブースでのプレゼン・意見交換

○類似他事例（次ページにて詳細）

【010】横浜IEEE ICRA：テクニカルツアー訪問先の企業に横浜に来ていただき技術交流会を実施。企業と学生のマッチング機会を創出した。

【035】京都MNC：会議の初日に技術セミナーを開催し、地元の半導体関連企業を招待し、会議参加者との交流を図った。

■ 企業連携に関する他事例の紹介

	会議概要	企業連携の概要	参考となる取組
010 横浜 IEEE ICRA	ロボット工学とオートメーション分野における世界最大の国際会議	● 展示会（ICRA EXPO）への出展による自社開発ロボットのデモンストレーション実施 ● ロボット関連企業の研究所を訪問するテクニカルツアーの実施 ● ツアー訪問先企業を呼び技術交流会を開催	● テクニカルツアーには人数制限があるため、別途訪問先企業に会議場近くに来ていただき、技術交流会を実施した ● 企業側はより多くの会議参加者と交流することができ、特に学生とのマッチング機会を作ることができた
108 つくば HVIS	超高速衝突に関する宇宙関連の国際会議	● JAXAへの見学ツアーの際に、宇宙産業に関わりのある企業・関心のある企業による展示会（出展39社）を訪問 ● 同日に開催されたバンケットにて、出展した3社から技術紹介を実施	● つくば市産業振興課産業創出支援係、及び茨城県特区・宇宙PJ推進室の協力を得て本国際会議にあわせて展示会を開催いただいた ● 茨城県内の企業に、海外展開や海外展示会への出展を視野に入れる機会を提供した
021 富山 IIT	半導体製造プロセスにおけるイオン注入技術に関する国際会議	● 会議テーマに関連する企業15社からの協賛 ● 富山県内企業に対して、学会でのPRタイム企業ブース出展、工場・企業見学等の参加を募集し、会議参加者や協賛企業との交流の場を提供	● 県内企業募集にあたり、富山県経営者協会、富山県商工会議所、連合富山等に協力を呼びかけ実現した ● 別途取り組んでいた北信越生徒・学生向け事業と連動することで、学生へのアピール目当ての企業の参加を促した
035 京都 MNC	半導体微細加工技術、ナノテクノロジー研究を議論する国際会議	● 会議初日の午後、京都府及び京都産業21の共催による「京都府半導体産業振興・技術セミナー」を開催し、地元企業も参加 ● セミナー後の交流会に地元企業参加者を招待し会議参加者との交流の場を提供	● 京都府側に半導体産業における京都の強みである「材料」「製造装置」分野を中心に産業振興を図ろうとする経済政策があり実現した ● 会議主催者側と地元行政とで内容に関する打合せを数回実施し、地元参加者が興味を持つプログラムを準備した

実証事業に関わった主催者、CB等へのヒアリング結果から「企業・地域産業連携」における成果をまとめる



021 富山 IIT	会議名	イオン注入国際会議
	実証事業名	富山県に根差す産業と半導体産業の融合による新技術を生み出すための機会創出
	概要	会場に国際会議に県内企業の方を招待し、半導体企業との交流の場を提供し、非半導体企業を含めた8つの企業訪問・工場見学を実施。近隣の大学生/高専性/高校生を招待し、サテライトワークショップを開催。一部の学生はポスターセッションにも参加し、海外研究者に対して英語で研究発表を実施。

■ 事業のポイント

- 国際会議開催期間中に、**大学生・高専生・高校生を対象としたワークショップ**を開催。**半導体における著名な若手研究者**による講演を行い、その後、講演者、国際会議参加者、参加学生を交え、「半導体を使って描ける未来」について議論。
- 学生達によるポスターセッションを実施。学生は**英語で自身のポスターを発表し、世界的に著名な研究者・技術者が審査**。その後、優れた発表に対して**アワードを授与**。

■ 得られた成果

- 富山県・石川県から50名を超える生徒・学生に、**国際会議に触れる機会**を提供。また、高校生の参加にあたり、**富山県高等学校校長協会及び富山県教育委員会**とのネットワークが構築できた。今後、全国の高校の科学系クラブの活躍の場を検討する。
- 今回参加した学生を中心に、**応用物理学会スチューデントチャプター北陸・信越支部の設立**が検討されている。
- 会議に学生を募集したことで、学生との接点を求めて**スポンサー企業が増加**。



ワークショップ



英語でのポスター発表

○類似他事例

- 【014】京都ICE：会議テーマにあわせ、会議参加者と地元の子供達と交流の場を提供する昆虫採集を企画（ただし台風により催行中止）
- 【041】京都STS：レセプション時に地元高校生による生け花のパフォーマンスを実施。海外参加者との交流機会を創出。

実証事業に関わった主催者、CB等へのヒアリング結果から「学生・市民連携」における成果をまとめる



112 仙台 Eco- Balance	会議名	第16回エコバランス国際会議
	実証事業名	会議の環境負荷最小化のための取組みを通じた世代・地域間連携の実施
	概要	会議のテーマにも通じる環境負荷最小化のための取組みとして①自然資本保全型カーボンオフセット、②イベントプラ循環仙台モデル実証、③バイオマス容器等ワンウェイプラスチック容器排出量最小化④未利用食材の活用によるメニュー開発など食に関わる環境負荷最小化等を実施

■ 事業のポイント

- **環境問題の専門家**により、国際会議における環境負荷最小化への様々な取組みを実現。
- カーボンクレジットの調達を**森林、水田等自然資本管理由来のカーボン**に限定。
オフセットするだけでなく、自然資本保全への資金の好循環を実現し、里山・里海の保全・質的向上を実現。
- **仙台市イベントプラ循環事業者と連携**し、市内で分別回収された**P S原料のカトラリー**を使用し、使用後は再回収し次のイベントで使用する**プラスチック循環**を実現。

■ 得られた成果

- これまで同会議で、運営に関わるコストと参加費の収支バランスから導入できずにいた会議運営の環境負荷削減・抑制について初めて取り組むことができた。
- イベントプラ循環モデルに関して、**欧米の専門家から高評価**を得ることができた。
- カーボンクレジットを創出する食材や未利用食材を利用したメニュー開発により、地元のケータリング事業者の**仕入れ先開拓や経験値の向上**が図れた。



カーボンクレジットを創出する水田で収穫したお米



カトラリーリサイクル

○類似他事例

【040】沖縄SPNHC-TDWG：「沖縄MICE開催におけるサステナビリティガイドライン」に沿って国際会議を運営した県内外初の実証事例。
チェックシートの活用により、当日のプロセスを記録・評価し、最終日に結果を発表。

109 松山 AABE	会議名	アジア生物学教育協議会第29回隔年会議
	実証事業名	国際会議開催によるMICE人材の育成と地域産業の活性化による国際対応の強化
	概要	MICE人材育成のための学生や事業者に対する5つの事前・事後研修を実施。①トコロジストに関する講演会、②ワークショップ現地調査、③ハラル対応講習会、④エクスカーション実施のための講習会、⑤道後観光の現状に関する研修会を実施

■ 事業のポイント

- 事前には会議の運営を手伝う学生に対して会議テーマに関連する学びや、会議における国際交流等を促す**事前指導を実施**、事後はフォローアップを含め地域の観光に関する研修を実施。
- 東京から専門家を招聘し、地域の事業者に対して「**ハラル認証を取らなくても、どのようにして会議参加者に受け入れられるか**」という講習を行い、一部の事業者は、実際に参加者に提供。



学生への事前研修

■ 得られた成果

- 研修を受けた学生達が実際に国際会議を経験し、大学生を中心に、松山観光コンベンション協会が設立した**MICE人材バンク**に登録を開始している。今後登録者を増やし研修会実施により人材育成を継続していく予定。
- ハラル講習を受けた事業者が提供した飲食が、実際にハラルの参加者に受け入れられることが実証でき、松山でMICEでの**ハラル対応可能な事業者**が増えた。
- 本取組を愛媛大学国際連携推進機構に共有し、**愛媛大学の国際連携の推進に貢献**できた。

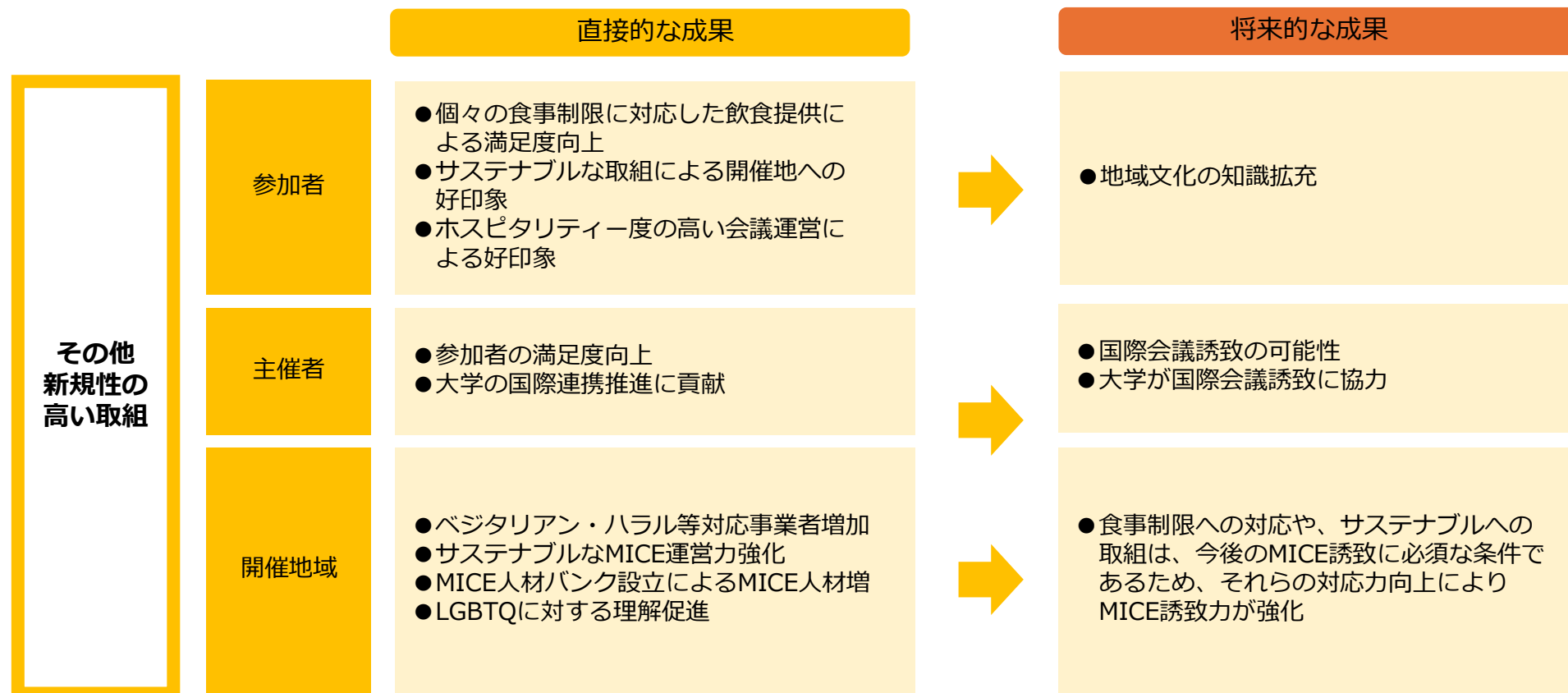


ハラルの説明文書を添付して提供

○類似他事例

【028】福岡IGLTA：「福岡グローバルMICEスクール」の学生がイベントの企画や運営に参画し、海外参加者と意見交換等を実施。また、専門家を招聘し、観光事業者向けのLGBTQツーリズム基礎講座を開催。地元事業者の理解促進を図った。

実証事業に関わった主催者、CB等へのヒアリング結果から「その他新規性の高い取組」における成果をまとめる。



004 松江 APCFE	会議名	アジア太平洋破壊と強度の国際会議（11/25～29）
	実証事業名	開催都市外でのポストコンファレンスの実施（11/29～30）
	概要	国際会議終了後、岡山県へ移動し、刀剣や岡山の歴史をレクチャー。その後岡山城でバンケットを行う。翌日、刀剣の歴史を長船の刀剣博物館で学び、会議テーマである工学材料の強度の分野に因んだ、物質として鉄の生成から、刀という伝統工芸品に昇華するストーリーを提供。

国際会議
鳥取県松江市

移動距離169km
電車で約2時間半

岡山県岡山市
刀剣の歴史レクチャー
岡山城バンケット

岡山県瀬戸内市
備前長船刀剣博物館

■ 集客

3月：主催者とツアーの詳細を詰める
4月：ホームページで事前告知
5月：先行でツアー募集開始
8月：国際会議の参加登録開始
11月：中止が決定

※十分な期限をもってホームページ上に事前告知。
※会議期間中に4つの半日エクスカージョンも計画していたが、こちらも催行人数不足で開催中止となった。

■ 催行中止理由

- （主催者より）
- ・当初の予定よりも中国人の会議参加者が極端に少なかった
 - ・1泊2日という企画が大規模過ぎた可能性がある
 - ・松江を出発し解散場所が岡山だったことが悪かった可能性
 - ・ツアータイトル（「たたらと刀」）が理解しにくかったかもしれない
 - ・国際会議とツアーコンテンツが参加者の興味とマッチしていなかった
 - ・最近大学や企業の出張が厳しい（会議日数以上滞在するのが困難）
 - ・有料（5,000円）にこだわりすぎた

■ 反省点と今後のポイント

（今回のエクスカージョンを企画したエージェントより）

- ・主催者は募集型ツアーを実施したい傾向にあるが、**参加者としては個人型嗜好が強い傾向**にある。（行きやすい場所→自分たちで計画）
一方で**テクニカルビジットやサイトビジットの場合**は自分たちでは計画できないので、集客しやすい。（行きにくい場所→ツアーに参加）
- ・参加者は仕事で来日しているため、**国際会議の研究テーマに関連した内容をどのように適用できるかが、催行の可能性を高めるポイント**。
- ・松江は文化施設はたくさんあるが、テクニカルなコンテンツは少ないので、他県を利用することは大切である。

4 実証事業からの考察 9) 実証事業における具体的な試行や検証から学ぶ

■優良事例における主たるステークホルダーの取組のまとめ

	主催者の取組	自治体・CBの取組	参加者の満足度
I 型	015 長崎 HSR ●国際組織HSG主催の110か国/地域から参加する本格的な国際会議を、長崎大学が中心となって長崎への誘致を実現。 ●国際組織との粘り強い調整・交渉により誘致が実現した。	●長崎国際観光コンベンション協会 (DMO NAGASAKI) は2022年から長崎大学と連携し本国際会議を誘致。 ●五島市へのエクスカーション、イノベーション博覧会の全体運営管理を担当。	ツアー、博覧会ともに参加者から高評価と高い満足度
	102 大阪 SIHDA ●歴史・文化への関心が極めて高い参加者に対して、浄るり体験や住吉大社の無言詣り・ガラディナー、大阪城BBQの他、粉もの体験や和菓子の提供等、日本文化の多様性を感じられる様々な歴史・文化体験を企画・提供。	●大阪観光局は主催者を支援し、専門的な助言や事業者の紹介の他、当日の斡旋サポートも対応。	参加者から新鮮な経験が得られたと高い評価
	026 広島 IPS ●テクニカルビジット訪問先として主催者のコネクションがある外資系半導体先端企業等、訪問先を提案。	●広島観光コンベンションビューローと東広島市の連携に加え、関連事業者による綿密な打合せ・周到な準備により、東広島市へのエクスカーションと東広島市役所でのバンケットを成功に導いた。	東広島市へのツアーや市庁舎でのバンケットは参加者から高評価
	027 高松 IIAI ●「うみまち商店街」バンケットの各店舗や日替わり体験型エクスカーションの新たな訪問先に対して、東京から何度も高松市を訪問し、主催者自らが事業の実現に努力を重ね成功に導いた。	●高松観光コンベンションビューローは主催者の意向を組み、県内各自治体との連絡調整や、県内郷土芸能団体との交渉に取り組み、新たな関係機関や事業者とのネットワークを構築。	香川県の食文化・産業・郷土芸能を日替わりで体験でき、参加者から高評価

 : 特に主体的に取り組んだステークホルダー

4 実証事業からの考察 9) 実証事業における具体的な試行や検証から学ぶ

■優良事例における主たるステークホルダーの取組のまとめ

		主催者の取組	自治体・CBの取組	参加者の満足度
II 型	041 京都 STS	●国際会議の実施主体であるSTSフォーラムは長年に亘る京都実行委員会との良好な関係性により、本実証事業の実現に対して主催者の立場で最大限実施に協力。	●長年STSフォーラムを地元として支援してきた京都府、京都市、京都商工会議所、京都文化交流コンベンションビューローによる支援実行委員会が、本実証事業の主体として企画から当日運営を担当。	参加者から高い評価を得るとともに出展者からも高評価
	021 富山 IIS	●本実証事業のための委員会を設置し月2回ミーティングで、より開催効果の高い取組のための議論を重ねた。 ●地元企業や学生の参加を促すために東京から何度も富山を訪問し直接説明を実施。	●富山コンベンションビューローは主催者の意向を組み、地元事業者と共に、県内企業や県内の学生参加の実現に向け主体的に取り組み、実証事業の実現に貢献。	参加者のほか県内企業や学校や学生からも高評価
III 型	112 仙台Eco-Balance	●自然資本由来のカーボנקレジット購入やイベントプラ循環仙台モデル実証、未利用食材を活用したメニュー開発等の取組を、主催者自ら事業者と何度も打合せを重ねて環境負荷最小化の取組を実践。	●実証事業の全体監修支援を行った仙台市環境局および会議開催を支援した仙台観光国際協会は今回の取組を継承。	環境問題の専門家である参加者から高い評価
	109 松山 AABE	●愛媛大学がMICEの運営として、学生の人材育成に関わった。 ●愛媛大学国際連携推進機構と連携し、本事業の成果を共有。MICE開催効果が人材育成の観点でも有効であることを報告。	●松山観光コンベンション協会は、MICE人材育成のための事前事後教育の他、観光事業者に向けたハラル講習会等を主体的に実施。 ●協会内に「MICE人材バンク」を設立。	講習会の成果となるハラルフードの提供は参加者に高評価

 : 特に主体的に取り組んだステークホルダー

個々の取組事例から見えた、全体に共通する課題と解決策について下記にまとめる。

課題

●学生との連携

地域の学生に参画を呼び掛ける場合、どのような方法が効果的か。

※今回の実証事業から見えてきた課題



解決への示唆

地域の教育委員会や校長協会を通じて、地域の学生に声がけをした事例があった。更に、主催者の先生方が実際に学校に足を運び、主旨や効果の説明を行った。
また、主催者の先生が所属する国立大学の附属校と連携した事例や、CB職員の母校にお声かけした事例もあった。

●企業との連携

地元企業に声をかけても、国際会議の敷居が高く、参加する企業が集まらないのではないか、という懸念がある。

※今回の実証事業から見えてきた課題



最初に地域の商工会議所等の経済団体に声をかけて、傘下の企業を集めた、という事例があった。また、自治体の産業政策に合致する分野の場合は、自治体の担当部署の協力を得られる場合もある。また、主催者の先生方からお声がけをして企業を集めた事例もあった。

●MICE経験の無い自治体との連携

MICE経験の無い自治体に対して協力を依頼する場合、どのような方法が効果的か。

※今回の実証事業から見えてきた課題



開催地のCBから、先方の自治体に連絡し、事業の主旨や目的を丁寧に説明し、理解を得たという事例が多かった。自治体担当者が、実際に国際会議を体感する、ということが重要であり、更に首長の方に体感いただく機会が作れると、その後につながる可能性が高いため効果的。

課題

●通訳案内士（ガイド）の経験値・レベル

地域により通訳案内士（ガイド）の経験値・レベルに差がある。特に地方においては、レベルアップの機会が少ない。ボランティアガイドの場合、ホスピタリティー度は高く、知識は豊富だが、旅程管理力に乏しい。

※今回の実証事業から見てきた課題

●サステナブルなMICE運営

サステナブルな運営の重要性は理解しているが、具体的な方法がわからない。または費用の関係で実施できない。

※以前からの課題

●食事におけるベジタリアン・ハラル等対応

地域によりベジタリアンやハラル等の食事制限への対応力に差がある。対応可能な飲食店や事業者が少ない。

※以前からの課題

解決への示唆

ライセンスガイドの場合は、事前の打合せを入念に行うことで、ある程度解決できる。
ボランティアガイドの場合は、ライセンスガイドと組み合わせて実地研修を行うことも有効である。なお、ボランティアガイドは旅程管理はできないため、要注意。

今回の実証事業での事例（沖縄や仙台）を参考に、地域として取り組めるところから着手する。
費用に関しては、主催者の理解が必要であるため、目的や有効性に関する丁寧な説明と効果的な提案が必要。

地域の事業者に対して、ベジタリアンやハラル対応の講習会を開催することで、国際会議開催時における対応可能な事業者を増やすことが可能。特にハラルに関しては、「ハラル認証」を受けなくても参加者に受け入れられる場合がある。

課題

●ツアー募集のタイミング

海外参加者が来日の旅程を決定するタイミングでツアーの案内を行わないと、ツアーを募集しても参加希望者が集まらず、催行できない可能性がある。

※今回の実証事業から見てきた課題

●ツアー直前や当日のキャンセル

特に会期前や早朝にツアーを設定した際にキャンセルが多かった。ロングフライト後の時差等の影響もある。

会期の前にツアーを設定する場合、注意する必要がある。

※以前からの課題

●ツアーの料金設定

どの程度の参加料金を設定すれば参加希望者が集まるのか、料金設定が難しい。

→次ページで詳細を解説

※今回の実証事業から見てきた課題

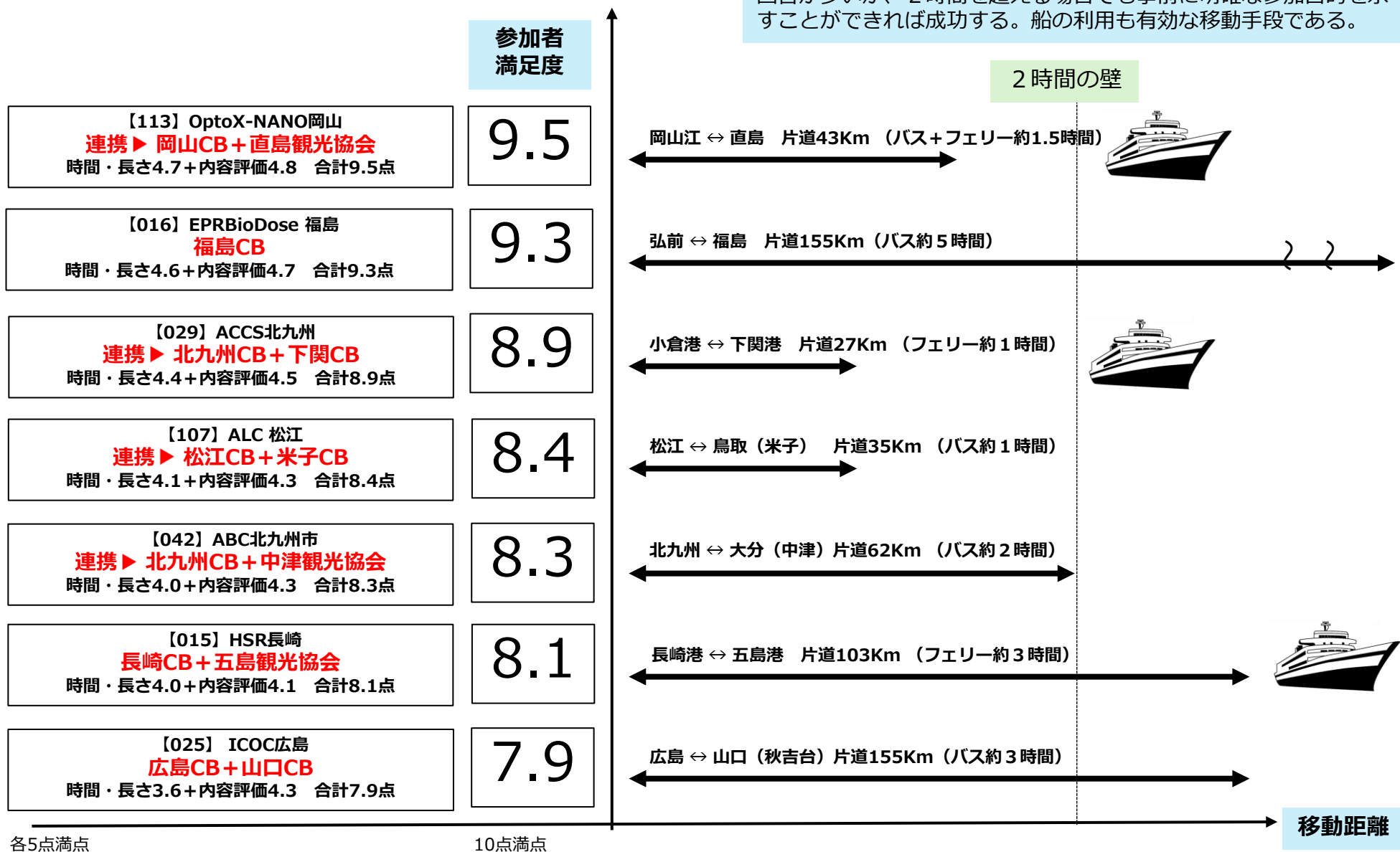
解決への示唆

参加者の属性によっても異なるが、海外参加者に関しては、最低でも3か月前、できれば半年前には案内を行うべき、という意見があった。その場合、ツアーの詳細の案内は不要で、その日にツアーが設定されることだけわかればよい。ただ参加者にVIPが多い会議の場合、3か月前だとまだ前後の予定が決められないため、1~2か月前でよいという意見もあった。会議の特性にあわせて設定が必要。

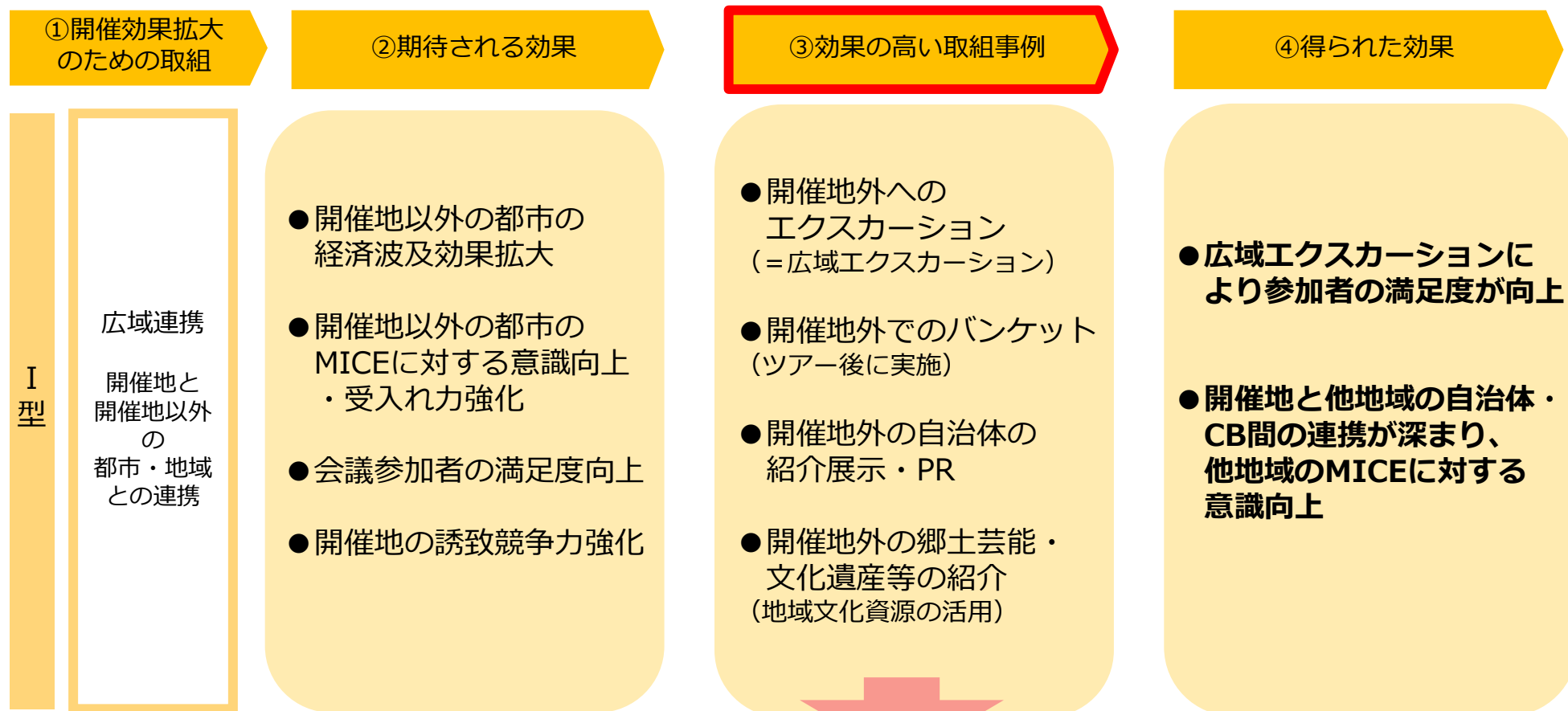
前広な案内と、前金（デポジット）の収受によりある程度キャンセルは軽減できる。前広な案内により余裕を持って来日いただけた会議では実際にキャンセルは少なかった。会期前にツアーを設定することで、会議前に参加者同士が交流し実際の国際会議の効果が高まる、または地域にとっては宿泊需要の増加が見込める、というメリットがある。

会議によって条件が異なるため、一律な回答は無い。ツアー料金を登録料に含む場合、主催者が一部負担する場合、全くのオプションで旅行会社が主催する場合、それぞれで料金設定方法は異なる。今回の実証事業の事例で考えると、個人でも行ける訪問地の場合は、ツアー募集をしてもあまり集まらない。

開催地においてエクスカージョンの適切な訪問先がない場合は地域連携で遠出の検討は効果的



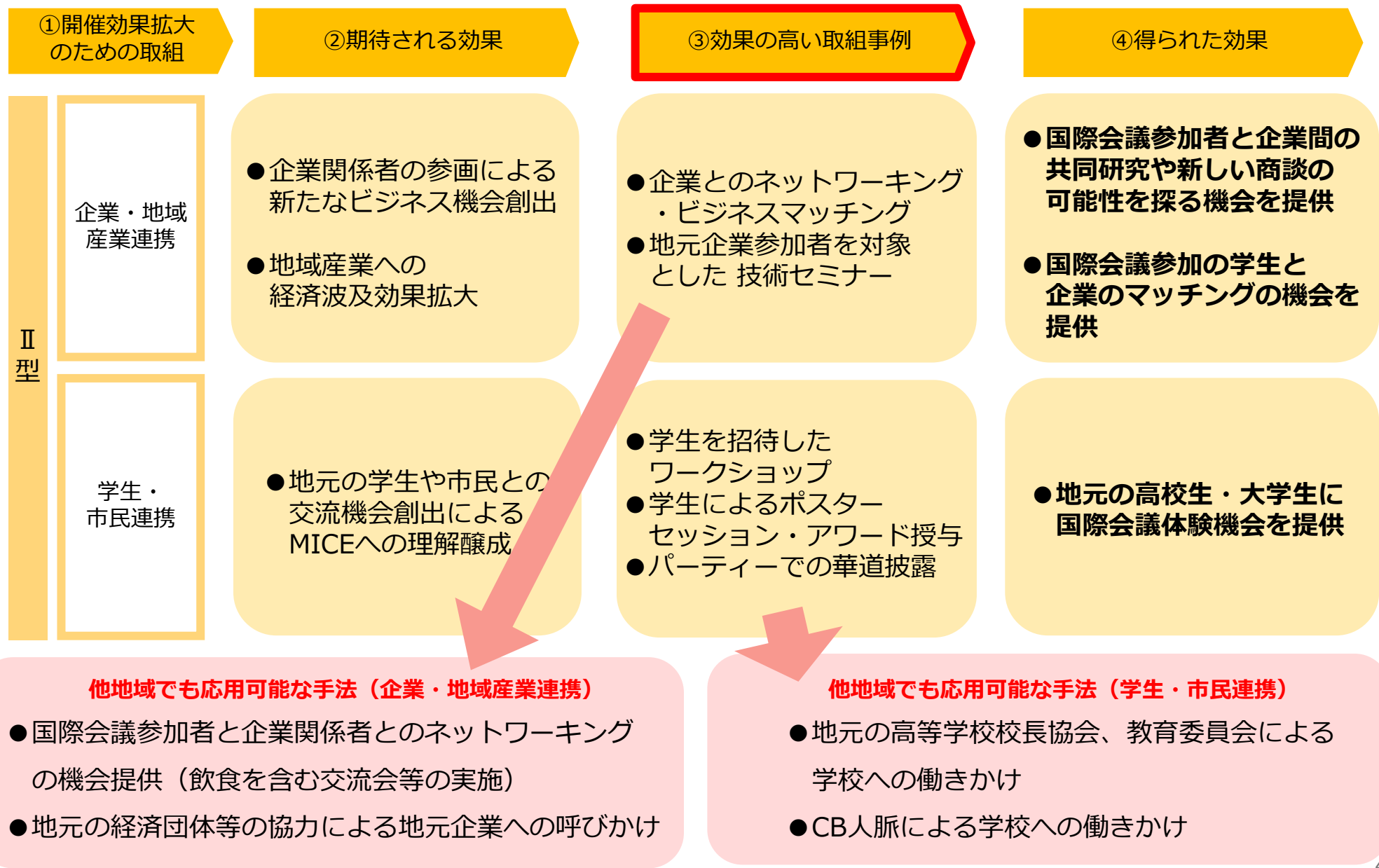
I 型 広域連携



他地域でも応用可能な手法

- | | |
|----------------------|--------------------|
| ●既存コンテンツをストーリー仕立てで展開 | ●ツアー訪問地の自治体首長の参画 |
| ●レアな現場と現地とのコミュニケーション | ●他自治体の紹介パネル展示 |
| ●そこでしか体験できないレアなコンテンツ | ●他地域の郷土芸能・文化遺産等の紹介 |

Ⅱ型 会議関係者とそれ以外の多様なステークホルダーとの交流



Ⅲ型 その他新規性の高い取組



5 事務局が実施した伴走支援

5 事務局が実施した伴走支援 1) 実証事業前

本事業を実施するに際し、事務局として申請者に行った伴走支援内容を下記の通りまとめる。

実証事業前の課題

①予算組みの甘さ

見積が大まかで、妥当性が判断できない。飲食内容と金額が見合っていないなど

②裏どりをしていない

訪問先の裏どりをしておらず、実証不可能になった

③実証事業内容の工夫

ありきたりなエクスカーションやネットワーキングの内容で新規性・付加価値に欠ける

④食の対応

ベジタリアンやハラルなど対応した食の準備ができていない

⑤悪天候の想定

悪天候や災害時のツアーキャンセル、プログラム変更に関する事前の取り決めが不足

⑥フードロス対策

立食形式は参加者人数分を用意すると残ってしまう場合がある

⑦募集催行人数の不足

⑧現地通訳士の育成

慣れた通訳士に頼り、大都市からの通訳士を派遣するケースがある

⑨アンケートを紙ベースで配布

データとあわせて紙での作成が必要となった

⑩訪問先の取材不可

機密性の高い訪問先では、取材不可の場所がある

伴走支援内容（どのように解決したか？）

①予算組みの甘さ

計画書の経費項目1つ1つに対して具体的な内訳を提供するようアドバイスし、妥当性を確保した

②裏どりをしていない

代替案の提案を行い、CBにも協力を依頼した

③実証事業内容の工夫

エクスカーションやネットワーキングを実施することが目的ではなく、そのイベントを通じて効果を出す必要があることを強調し、いままで行っていない仕掛けや工夫を要求した

④食の対応（ベジタリアンやハラルなど）

昼食や夕食ではベジタリアンやハラルなど対応しているか確認し、対応できていない場合はアドバイスも実施

⑤悪天候の想定

雨天時や台風など悪天候時のバックアッププランを用意するよう指示した。申請者と観光庁間のキャンセル料に対する事前の取り決めも行った

⑥フードロス対策

立食形式は参加者数の7割分の料理を用意するように指示した

⑦募集催行人数の不足

一般観光との差別化を図る為、企画の提案や告知媒体を確認し、かつ魅力あるPRを実施するようアドバイスを行う

⑧現地通訳士の育成

実施前に都度確認をし、現地通訳士育成の重要性などをアドバイスを行う

⑨アンケートを紙ベースで配布

紙ベースでのアンケートを作成し、事業者の負担を軽減した

⑩訪問先の取材不可

実施前の念入りな確認を行う

実証事業実施時の課題

①食の表記対応

ベジタリアンやハラル、アレルギーに対応したメニュー表記になっていない

②no show対策

テクニカルツアーの当日キャンセルが多く、参加人数が少なかった

③通訳の人数不足やレベルの質

英語の通訳が不足しており、通訳者がそばにいない参加者には取組や訪問地の解説などの情報が伝わりにくかった。また、ボランティアガイドのレベルがプロに比べて低く、混乱が生じた

④フードロス対策

参加者同士のコミュニケーションが盛んな場合は、ケータリングの残飯が多い。若い参加者が多い場合は、フードロスが少ないが、平均年齢が高い場合は、残ることが多い。

⑤アンケート回収率の低さ

実証事業実施時は忙しく、アンケート入力が二の次になってしまう

伴走支援内容（どのように解決したか？）

①食の表記対応

食材等の説明文を加える指示を現地で行う

②no show対策

今後は国際会議参加登録と同時にエクスカージョンやテクニカルビジットの受付を行うようアドバイス。また、有料で募集することも視野に入れるよう指摘した。no show防止策として、申込金の収受を継続し、キャンセルポリシーを明確にする。動画を利用した募集や集客を事前に行うことで、参加者に事前に申し込み内容をしっかり把握してもらう。

③通訳の人数不足やレベルの質

事業終了後のフィードバックを行い、今後は一定のスキルの均一化を図るためリハーサルや事前研修の実施、よくある質問への対応など今後の対応についてアドバイスを行った

④フードロス対策

参加者の平均年齢を考慮したり、着席なのか、立食なのか、あるいはコミュニケーションを図る仕掛けが時間内にあるのかわかるのか、などでフードロスは大きく変わるので事業ごとに細かなアドバイスを行う

⑤アンケート回収率の低さ

アナウンスを流したり、リマインドメールの送信を依頼する。また、場合によっては紙の配布によるアンケート回収につとめる。

伴走支援で見つかった課題を今後の国際会議に活かすために、事前に問題となりそうな点を洗い出し、それを防ぐための解決策のヒントをまとめたチェックリストを作成した

5 事務局が実施した伴走支援 3) その後の継続性や自走へ向けたチェックリスト

●チェックリストの使い方

令和6年度の全30事業
における課題等を整理した
取組チェックリスト

①テーマごとに計画の妥当性を探る

②取り組み内容からヒントを探る

③効果項目から最大化を図る

より効果的な実施計画へ
(チェックリストは
誘致用提案書等にも活用可)

カテゴリー	テーマ	☑	取組	配慮事項	重要度	参照事業
エクスカーション編	訪問先選び 企画内容の検討		帰国時に報告できる内容を企画する	一般観光が中心であれば、研究者や大学、行政関係者は公費参加の対象外となる	高	
			一般観光との差別化を図る	一般観光は個人でレンタカーを借りるなど個人旅行の傾向が増えている		
			ポストカンファレンスツアーなどの位置づけを検討する	オフィシャルなツアーは、多くの参加者を集めることができる	高	
			移動距離は2時間以内が好まれる	移動距離は短いほうが良いとの傾向があり、募集時に気軽さをPRすることができる		
			移動距離が2時間以上の場合は腹落ちするストーリー性が必要	移動距離が長くても、それなりに価値を訴求できる内容であれば参加者は集まる		
			県外など広域エリアの訪問は内容次第で効果的	様々な訪問先やコンテンツの組み合わせが可能となり充実した内容となる		
			観光スポットや見どころはレアな場所やコンテンツが好まれる	有名な場所よりも希少性や珍しいなど内容が好まれる		
	募集時		募集にあわせて参加者向けの日本の情報収集サイトを紹介する	国際会議のWEB上に地域や、JNTOなど必要な情報を載せる		
			募集にあわせて参加者向け情報提供は関心のある内容やコンテンツを紹介する	文化、歴史体験、学会に関連した地域の情報等を希望している		
			簡単なプロモーションビデオなど動画による訴求を行う	既にある動画を編集し、短めの動画は訴求力が倍増し参加率を高める		
			国際会議参加登録と同時にエクスカーションの受付を行う	後日の募集は効果が半減（参加登録時に往復フライトを予約するため）	高	
			有料で募集する	無料はno showなど当日キャンセルが出やすい		
			募集時に年齢や参加国別等を把握する	平均年齢が低いと食事は多めの手配が必要。国別は食の多様性等の配慮に役立つ	高	
	移動		海に囲まれた日本は船を利用した移動も海外には人気	景色が豊かな船のゆったりとした移動はエクスカーションに彩りを添える		
			バス移動中はガイドや通訳で地域の解説を行う	地域の特徴や歴史・文化・裏話などを紹介する		
			バスにおける弁当などの食事はハラル対応なども考慮	食の多様性に対応	高	
			バス移動中に地域のプロモーションビデオなどを上映する	地域をより具体的に学ぶことができる		
	飲食やパフォーマンス		市長挨拶など歓迎スピーチは効果的	地域を代表してのウェルカムメッセージは海外では重要な取組		
			食の多様性を十分に考慮する	ベジタリアン、ビーガン、ハラル対応などを準備し、表示も工夫する	高	
			日本酒などの地酒、地ビール、ワインなどは人気がある	各地域の特産品を用意する	高	
			アルコールの飲み比べ等は、余興として盛り上がる	各地域をより深く理解してもらう機会となる		
			会場に制限がある場合は、キッチンカーなどの活用も検討する	公的な施設は飲食の制限がある場合があり、その場合の工夫方法として役立つ		
			カトラリーは箸と洋食用の両方を用意する	各国からの参加者を考慮する	高	
			試食や即売のコーナーを設けることもアイデアとして有効	お土産として人気の地域特産品がある場合は役立つ		
			参加者同士のコミュニケーションが相互に図れる工夫を行う	知らない参加者の組み合わせになるような工夫を実施する		
			地域の余興などの披露は重要	体験型にするとより満足度が向上する	高	
	ガイド・通訳		地域を熟知したガイド・通訳の手配は重要	クオリティーのばらつきがないようにする。マニュアル等あればさらに良	高	
			ガイド・通訳の事前研修は効果が絶大	国際会議の専門性を事前学習することで会議テーマの専門用語を理解し参加者へ説明		
			SNSなどのホットスポットやコンテンツを紹介する	参加者がSNS上で自分の体験を拡散し、より日本の魅力が外部へ発信される	高	
			日本と海外の文化や習慣の違いや裏話を解説する	より日本への興味や関心につながる。再来日性も高まる	高	

5 事務局が実施した伴走支援 3) その後の継続性や自走へ向けたチェックリスト

カテゴリー	テーマ	☑	取組	配慮事項	重要度	参照事業
テクニカルビジット編	訪問先選び 企画内容の検討		帰国時に報告できる内容を企画する	一般観光が中心であれば、研究者や大学、行政関係者は公費参加の対象外となる	高	
			国際会議のテーマに沿った企業訪問等の内容を検討する	日本の先端技術、文化、伝統工芸、ポップカルチャーなど様々なテーマが対象となりえる	高	
			普段見れない・外部公開していないなどレアな訪問先を探す	希少性が増し、参加者の満足度が向上する	高	
			企業探しは自治体や商工関係者等を巻き込み連携を図る	複数の視察先確保や関連した企業を見出すことで新たなビジネスの連携を創出する		
			移動距離は2時間以内が好まれる	移動距離は短いほうが良いとの傾向があり、募集時に気軽さをPRすることができる		
			移動距離が2時間以上の場合は腹落ちするストーリー性が必要	移動距離が長くても、それなりに価値を訴求できる内容であれば参加者は集まる		
			県外など広域エリアの訪問は内容次第で効果的	様々な訪問先やコンテンツの組み合わせが可能となり充実した内容となる		
			スタートアップ企業など新しいビジネスモデルは参加者に人気がある	〃		
	募集時		観光スポットや見どころはレアな場所やコンテンツが好まれる	有名な場所よりも希少性や珍しいなど内容が好まれる		
			募集にあわせて参加者向けの日本の情報収集サイトを紹介する	国際会議のWEB上に地域や、JNTOなど必要な情報を載せる		
			募集にあわせて参加者向け情報提供は関心のある内容やコンテンツを紹介する	文化、歴史体験、学会に関連した地域の情報等を希望している		
			簡単なプロモーションビデオなど動画による訴求を行う	既にある動画を編集し、短めの動画は訴求力が倍増し参加率を高める		
			国際会議参加登録と同時にテクニカルビジットの受付を行う	後日の募集は効果が半減（参加登録時に往復フライトを予約するため）	高	
			ポストカンファレンスツアーなどの位置づけを検討する	オフィシャルなツアーは、多くの参加者を集めることができる		
			有料で募集する	無料はno showなど当日キャンセルが出やすい		
			募集時に年齢や参加国別等を把握する	平均年齢が低いと食事は多めの手配が必要。国別は食の多様性等の配慮に役立つ	高	
	移動		海に囲まれた日本は船を利用した移動も海外には人気	景色が豊かな船のゆったりとした移動はエクスカージョンに彩りを添える		
			バス移動中はガイドや通訳で地域の解説を行う	地域の特徴や歴史・文化・裏話などを紹介する		
	学生との連携		バスにおける弁当などの食事はハラル対応なども考慮	食の多様性に対応	高	
			学生の参加を通して国際会議の開催意義を理解してもらう	国際会議に関心のある学生は、未来の研究者や主催者へとなる可能性がある		
			ワークショップなど参加者との交流の場は新たな経験となる	〃		
			高校生や大学生をボランティアとして活用する	活動を通して海外参加者と触れ合うグローバル感覚や地域の企業の取組を理解してもらう		
			地域企業との交流を通してリクルートなど就活にもつなげる	より高度な人材を求める企業は国際会議に関わる学生を歓迎する	高	
	飲食やパフォーマンス		交流会やネットワーキングを通じて参加者と企業がコミュニケーションを図る	情報交換やビジネスチャンスを得る機会は双方にとって有意義な取組	高	
			交流会の会場内に企業ブースなどを設置し取組をPRする	〃		
			食の多様性を十分に考慮する	ベジタリアン、ビーガン、ハラル対応などを準備し、表示も工夫する	高	
			日本酒などの地酒、地ビール、ワインなどは人気がある	各地域の特産品を用意する	高	
			アルコールの飲み比べ等は、余興として盛り上がる	各地域をより深く理解してもらう機会となる		
			会場に制限がある場合は、キッチンカーなどの活用も検討する	公的な施設は飲食の制限がある場合があり、その場合の工夫方法として役立つ		
			カトラリーは箸と洋食用の両方を用意する	各国からの参加者を考慮する	高	
			試食や即売のコーナーを設けることもアイデアとして有効	お土産として人気の地域特産品がある場合は役立つ		
			参加者同士のコミュニケーションが相互に図れる工夫を行う	知らない参加者の組み合わせになるような工夫を実施する		
			地域の余興などの披露は重要	体験型にするとより満足度が向上する	高	
	ガイド・通訳		地域や産業を熟知したガイド・通訳の手配は重要	クオリティーのばらつきがないようにする。マニュアル等あればさらに良	高	
			ガイド・通訳の事前研修は効果が絶大	国際会議の専門性を事前学習することで会議テーマの専門用語を理解し参加者へ説明		
			SNSなどのホットスポットやコンテンツを紹介する	参加者がSNS上で自分の体験を拡散し、より日本の魅力が外部へ発信される	高	
			日本と海外の文化や習慣の違いや裏話等を解説する	より日本への興味や関心につながる。再来日性も高まる	高	
その他 新規性が高い 効果的な取組	地域における 誘致・運営レベル の強化		サステナブルなMICE運営を行う	SDGsやサステナブルな取組は世界的な潮流で参加者および地域に効果をもたらす		
			日本が得意なポップカルチャーなどを紹介したり、体験に組み込む	コミック・アニメ、キャラクター、音楽など世界に通用しているコンテンツは多数存在する	高	
			気候変動を見える化した取組は参加者にとっても重要な価値がある	〃		
			食の多様性に対応する講習会やメニュー開発を行う	ベジタリアン、ビーガン、ハラル対応などは国際会議誘致にも重要な武器となる		
			LGBTQに対応する講習会や運営の取組を行う	海外の様々な多様性の受け入れ体制を強化する		
			学生等のMICEボランティアを組織化し受け入れ体制を強化する	地域で開催する国際会議の受け入れレベル向上		

※p.24と同様の内容

①エクスカーションについて

エクスカーションについては、エージェントに任せるケースが多く工夫の足りなさを感じた。移動が長距離の場合は、バス車内でクイズ大会やチームビルディングを行うなどゲームイベントを導入するなど一案である。参加者同士での盛り上がり期待でき、満足度向上に貢献することができる。札幌の事例ではバスでエクスカーションの目的をビデオにまとめて上映するなど入念な準備が行われた。今後、単なる観光ではエクスカーション参加者が集まらないので、より満足度の高い内容が要求される。バス移動などは共通の交通手段なので、次年度のMICE魅力向上事業で広域エリアMICEを開催する場合は、関係する採択者を集めて説明会を開催することも必要であると感じた。

②テクニカルビジットについて

国際会議のテーマに沿った地域ならではの企業探しは、一定の手間がかかり探しだす手がかりは少ない。主催者を通じたコネクション、地元商工会議所や経済界、銀行、シンクタンクなどを通じたチャンネルなどがあるが、企業探しのノウハウを構築できれば国際会議の誘致営業に大きく貢献できると考える。また、協力してくれた企業は、視察の場を提供するのみならず、企業協賛などの協力も得られる可能性がある。さらに企業は、国際会議などの研究者から得られる知見も期待することがある。そういった意味では、国際会議の主催者側と企業側がwin-winの関係を築くことに可能性を感じた。

③コンベンションビューローについて

事務局としてコンベンションビューローを伴奏し、多くの感謝の声を頂いた。信頼関係を築き、様々な相談を受けた事で当社も多くのノウハウを提供しやりがいを感じた事業となった。一方でそこから見えてきた点として、CBが抱える課題なども浮き彫りになった。

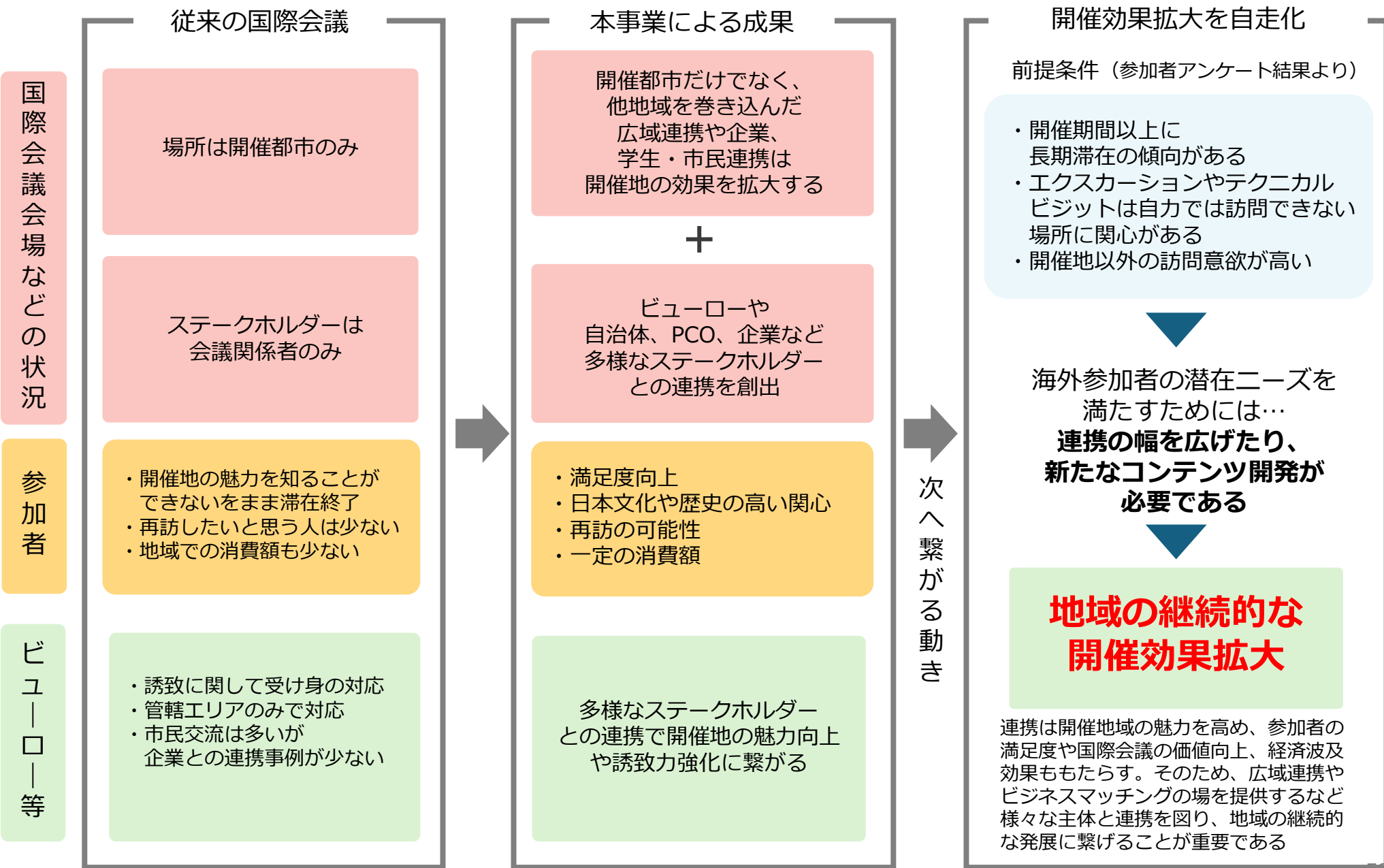
1) CBが相談する相手が少ない 自治体は無理。CBもグローバルMICE都市のように組織立っているところはチームワークで相談できるが中核都市等ではそれすらできない。JNTOもあるが現場を積んだメンバーが少なく実践的な相談は難しい。今後国際会議の開催件数は中核都市に伸びしろがあり、新たに何らかの形でワンストップの伴走機能を構築することで誘致力アップが期待される。

2) CBは営業活動が出来ていない グローバルMICE都市も中核都市も、問い合わせのあった案件に追われていることが大半で都市の魅力を主催者へ売り込むセールスが出来ていない。そのため、本事業の報告書では様式5に継続性を求めたが、絵に書いた餅になる可能性がある。本事業で得られた知見やノウハウが実際に活用されるためには、どんな分野で、どのような方法で誘致営業に使っていくのか？といった誘致営業に対するPDCAが構築されなければ、CBの営業力・誘致力はアップしない。

④事例集の活用について

配布を電子媒体にとどめているが、実際にアクセスがあった件数は極めて少ない。冊子の印刷は紙媒体の環境負荷を懸念する声もあるが、多額の実証事業費用をかけた様々な事例なので、広くしっかりと共有する手段として、コンベンションビューローへ印刷物として配布することで間違いなく回覧や動画閲覧など次のアクションにつながることにすると確信する。また、各事例はコンベンションビューローと校正作業を何度も重ねたが、「次の誘致提案にこの紙面内容を使っていいか?」「動画を主催者に提供したい」「地域のMICE関連事業者に見せて勉強させたい」など多くの声が寄せられていることから、利用価値は幅広くあるようである。

6 今後に向けたまとめ



継続的な開催効果とは

- ・ 広域の連携を行うこと、企業や市民との連携を構築することで終わってしまっては**先にはつながらない**
- ・ 継続した取組により、**開催効果拡大の自走化と深化につなげる**ことが重要
- ・ 継続した取組がなければ、1つの事例が増えたただけ本質的な地域の**国際会議の誘致力強化**にはつながらない
- ・ 実証事業の取組は開催効果拡大の自走化と深化に向けた**「きっかけ」**という意識が必要

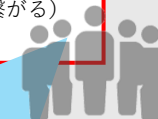
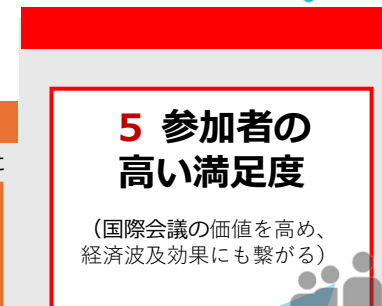
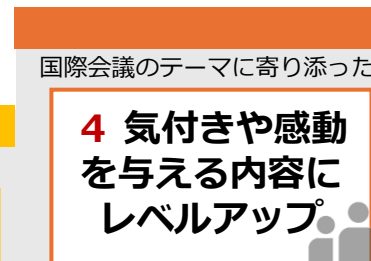
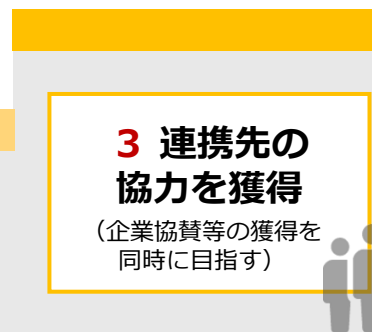
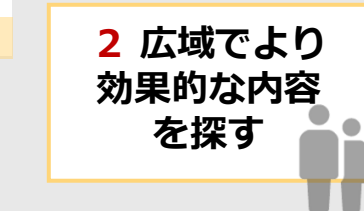
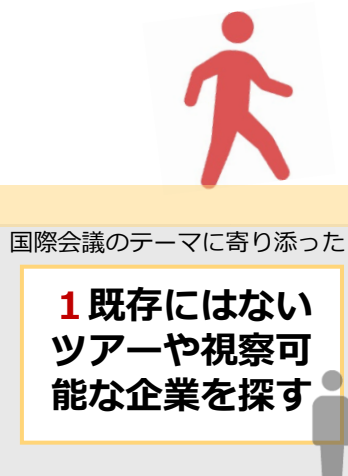
次ページにて、
コンベンションビューロー主体による開催地域の取組フローを解説する

- ・誘致に関して受け身の対応
- ・管轄エリアのみで対応
- ・企業との連携事例が少ない

という課題があるため、

受け身から能動的なアクションへの転換が必要

連携から生まれた新たな提案材料を獲得
これをさらに活かして
新しい**誘致**へのチャレンジ



連携するステークホルダーが増加

① コンベンションビューローの取組

①の取組後に、連携した地域にもたらされる様々な効果

未利用資源の
発掘

連携による
経済地域の拡大

新規ビジネス
チャンス

連携地域の
コンテンツ開発

連携地域の
レベルアップ

開催効果拡大のための必要な取組

① 予算に合わせた提案

- ・ **催行人数と参加費用がエクスカージョンの成立の鍵**となる。また、移動距離や普段訪問できない場所など訪問目的や効果なども重要である
- ・ ビジネスマッチングは企業の参加メリットと費用負担が鍵となる

② 費用対効果の最大化を図る

参加者がメリットとして感じる点は、エクスカージョンやビジネスマッチングを通して得られる新たな学びや興味関心等。そのため啓発につながるコンテンツを準備する

③ 実績を積み重ね、次の誘致に挑戦

実績で得られた知見・ノウハウを蓄積し、次の誘致に活かす

地域の継続的な開催効果拡大に必要な取組

① なぜ連携が必要なのかの整理

連携は**地域の魅力**を高めながら、**参加者の満足度**を高めることができ、主催者が開催する**国際会議自体の価値**、さらに**経済波及効果**もあるため必要である

② 連携する地域や主体を検討

- ・ **ビューローの取組に加えて自治体や大学などを巻き込みむことで協力体制が強固となる**。実行委員会など推進組織の枠組みも有効である
- ・ PCO、エージェント等民間の専門家や企業を巻き込むとより効果的

③ ビューローが次に繋げる動き

- ・ **連携先と関係性を継続する取組**
- ・ **誘致へ繋げるためのマニュアルやチェックリストの活用**

POINT

- ・ **エクスカージョンは、プレ（ポスト）ツアーとして国際会議のオフィシャルイベントの位置付け、ソーシャルプログラムやサイエティフィックプログラムなど区分や明示も重要**
- ・ ビジネスマッチングではサイトビジット、展示会、商談会、情報交換会などの組み合わせが効果的である

- 【エクスカージョン】海外参加者は開催地以外の訪問意欲が高い、開催期間以上に長期滞在する傾向がある、自力では訪問できない場所に関心がある等の潜在的ニーズを考慮する
- 【ビジネスマッチング】**参加者は企業視察などリアルな情報交換に関心が高い**。企業協賛等の獲得を目指すことも大切

- ・ **海外参加者によるSNS等の情報発信は拡散として効果的であり、実績としても有効である**
- ・ 知見、ノウハウを活かした誘致のためのチェックリストを整備し次の誘致に備える

POINT

- ・ 海外参加者の**潜在的ニーズ**において、エクスカージョンやテクニカルビジットは**自力では訪問できない場所に関心があり広域での訪問先探しは重要**

- ・ 連携主体が多くなるとコミュニケーション不足が起こりがち
- ・ PCOやエージェントへ丸投げでは、ビューローの人材育成やノウハウの蓄積につながらない

- ・ **連携先との関係性を持続するためには連携協定などMOUの締結や連絡協議会のような定期的なミーティングの開催が効果的**
- ・ 国際会議のテーマに関連した企業等へのアプローチは大学や自治体、商工会等が把握している場合が多く、**誘致案件ごとに推進体制を構築**することが重要

- ・ 連携は開催地域の魅力を高めながら、参加者の満足度や国際会議自体の価値を高めることができ、経済波及効果にも繋がる
そのため**開催地域にないものを広域で連携**したり、
参加者や企業にメリットのある**ビジネスマッチングの場を提供する等**
様々な主体と連携を図り、**地域の継続的な発展に繋げる**ことが重要
- ・ 開催効果拡大を自走化するためには
主催者・参加者の予算を踏まえた提案を行うとともに、
国際会議単体ではなく**地域全体としての「費用対効果」**を示した上で
各関係者の理解合意・企業の協賛を獲得していくことも重要
- ・ 国際会議の開催効果を高め、地域の継続的な魅力向上のためには
ビューロー等が主体となり、取組を進めることが重要

7 資料：国際会議における開催効果拡大に関する調査・提言

プログラムの自走化と“広域MICE交流圏”構築に向けて ～効果に応じたステークホルダー間の適性なコスト負担の在り方～

■ 自走化に向けたコスト負担の在り方と実証事業の対象選定手法について

- ・ 本事業においては、エクスカーションに係るコストを観光庁が負担することによって、参加者がコストを負担することなく参加可能な建付けとなっていたが、次年度以降これらの取り組みが地域に定着するためには、コスト面も含めた自走化が必須の課題となる。
- ・ 自走化に向けたコスト捻出方法のポイントは「裨益者負担」と言える。第一に最たる「裨益者」である参加者のコスト負担力・意向がどの程度あるのかを類似の既存プログラムなどから推計する必要がある。その上でトータルコストを参加者負担で補えないようであれば、例えばプログラムのコンテンツを提供する主体にも何等かのリターンが見込まれるのであれば現物支給や人件費持ち出しといった形でのコスト負担の可能性を検討する必要がある。
- ・ プログラムにかかるトータルコストと、関連する主体が享受するトータルリターンが釣り合わない可能性のあるプログラムは、例え高い満足度が得られたとしても自走化は困難であると考えられる。そのため、実証事業においても補助対象からは外し、より自走化の可能性の高いプログラムを対象とすることが望ましい。
- ・ そのためにも、対象事業の選択時に、例えば申請者に自走化に向けた将来的なコスト負担の考え方と、実証事業においてコスト負担可能性をどう検証するのか、といった自走化計画を併せて提出していただくなどの工夫を施すことが望ましいと考えられる。

■ 周辺自治体との一体的な誘致体制“広域MICE交流圏”構築にむけて

- ・ 「新時代のインバウンド拡大アクションプラン」に掲げられた「ビジネス目的での訪日外国人旅行消費額2割増（令和7年・対令和元年比）」の達成に向け、魅力的かつ広域なエクスカーションプログラムの提供により、国際会議の海外参加者等の宿泊数や滞在時間を延ばすことで消費増を促すことは重要かつ効果的な施策と言える。
- ・ また、周辺都市の多様なコンテンツを含めた広域圏での誘致は、都市単独での誘致に比べて高い競争力を有する効果も期待される。その一方で、現時点では国際会議の誘致活動は、開催都市単独で実施されることが一般的であり、そのコスト（資金・人的資源等）も開催都市単独で負担することが一般的である（政府の補助・助成等を除く）。
- ・ しかし、本事業で実施したような広域でのエクスカーションがより定着すれば、誘致に係るコストは開催都市に、開催による効果は開催都市だけでなく今まで以上に周辺都市に分散する形で発生することが想定される。
- ・ その結果、開催都市の効果の希薄化が進めば、誘致活動量の低下などが引き起こされる可能性も危惧されるため、都市間のコスト負担の在り方についても検討が必要と考えられる。例えば、周辺都市が開催都市に直接資金を提供することは難しいとしても、現物提供や人的コストの負担などをすることにより、より持続性ある広域での誘致活動が可能になると考えられる。
- ・ このように、開催都市を中心とした広域でのMICE交流圏の構築について、今後検討をすることも日本の誘致競争力強化と効果拡大に向けた議論の俎上の載せることも一案であろう。
- ・ なお現在、MICE開催の経済波及効果は開催都市のみで集計されることが一般的だが、周辺自治体に生じる効果の算出をモデルケースとして実施することは可能である。

1. 開催効果に関する定義

国際会議における開催効果は様々あるが、観光庁では5つに整理している。そのうち一般的に開催地がこれまで追求してきたのが「地域への経済効果」であり、この観点は引き続き国際会議の開催効果の最も大きな要素としてあげられる。加えて、直接的に地域にもたらす効果として「ビジネス・イノベーションの機会の創造」と「レガシー効果」があげられる。

2. 自治体・ビューロー等による自都市が目指す国際会議で取り込みたい開催効果の設定

ひとえに開催効果と言ってもその幅は広く、地域としてどのような開催効果を求めていく（期待する）のか、その観点での整理が重要となる。闇雲に開催効果を拡大するといっても、幅が広いため、その前提が整理されていないと、開催効果の拡大は難しい。開催効果の拡大の取り組みは、その効果によって取り組みが異なるからである。

3. 本事業における開催効果拡大

本事業における開催効果の拡大は、主に「効果範囲の拡大（開催地外への波及）」と「ビジネス交流の創出」の2点に重きが置かれている。この2つの観点での開催効果を拡大するために効果的な手法について考察する。

4. 開催効果拡大のために効果的な手法

1) 効果範囲の拡大

効果範囲の拡大の取り組みのポイントは、それぞれの地域間の協業によるメリットが重要となる。ビューロー等も、出捐自治体に付随する行政組織に近い組織であるために、出捐自治体の範囲外との連携となると、取り組みの出足はどうしても鈍くなる。

一方で国際会議誘致の文脈においては、その地域内の資源を活用して効果的な訴求ができればベストではあるが、必ずしも誘致しようとする国際会議の分野に合致するコンテンツや有効なつながりなどが不足する場合もある。そのため、誘致対象の幅を広げるという意味でも、広域連携が重要であることを認識、周知させていき、外向きの意識をつくることが重要となる。

誘致する国際会議の分野に即したコンテンツが周辺地域にないかを検討し連携することが、自都市での開催に有意義となることを、ビューロー等や出捐する自治体が理解することが、効果範囲を拡大する取り組みを促進するためには、最も必要な点となる。

2) ビジネス交流の創出

ビジネス交流の創出については、地域のこれまで国際会議に関与（認識）したことのない地元企業に、国際会議の場がビジネス機会として有意義であることを認知してもらうことが必要となる。

開催される国際会議に関連した分野の企業などに国際会議の説明を行うなどのアプローチができれば、これまで国内ではほとんど行われていなかった取り組みであるため、今後伸びしろの多い分野であると考えられる。

ビューロー等としては、地元の産業にどのような特徴があるのかを把握するとともに、商工会議所など地元の商工団体などとの連携を常日頃から行うことが重要になる。

海外などでは、例えばシンガポールなどは、そもそもMICEの誘致のためのパンフレットなどの一つとして、産業紹介のようなパンフレットも用意されていたり、ビューローが積極的に地元企業を紹介するなど、産業とMICEを結び付ける積極的な動きが見られる。